

SOCIUS No.11
[ソシアス] 仁愛女子短期大学 地域活動実践センター



仁愛女子短期大学

地域活動実践センター

〒910-0124 福井市天池町43-1-1
TEL.0776-56-1133 FAX.0776-56-2922
E-mail jissen@jin-ai.ac.jp

1. はじめに	澤崎 敏文	1
2. 公開講座・講習会		
・生活とデザインセミナー 「旨そうな県 福井」	深澤 直人	2
・幼児教育学科公開講座 「次世代の心を育む「環境」の役割ー現代社会を再考するー」	明和 政子	6
・仁愛食育推進事業 「平成28年度仁愛食育講座」	森 恵見	11
・保育者ワークショップ 「アンサンブルから学ぼう!」	河野 久寿	14
「子どもと保育者の心を開放するクレパス画体験」	賞雅さや子	16
・新人保育者スキルアップ講座	幼児教育学科	18
・卒業生情報交換会	幼児教育学科	19
・Microsoft Excel 基礎講座・応用講座	情報メディア教育支援室	20
3. 森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携事業報告	澤崎 敏文	21
4. 福井市との包括連携事業		
・「フクイ夢アート2016」に参加しました。	西畑 敏秀	23
・「きゃろふく」ネーミング・ロゴマークを作成しました。	西畑 敏秀	24
・もりた夢駅2016 ～夏物語 ～福井大“遊房”と初のコラボ～	内山 秀樹	25
・もりたエコキャンドル2016 ～メインアート部門、グループ部門 W受賞	内山 秀樹	26
・ふぐ ² ベジ・ファースト応援事業、越前福井の美味PR事業	牧野みゆき	27
・輝く女性の未来予想図事業「仁短♥ガールズトーク」	幼児教育学科	29
5. 図書館企画展示の活動報告	附属図書館	30
6. 福井市子ども家庭センター		
・平成28年度AOSSA子ども家庭支援センター・子育て支援室・相談室	子ども家庭センター・子育て支援室・相談室	32
7. 多文化体験プログラム		
・ロッキーナ先生と「Englishであそぼう」講座	野本 尚美	34
8. 福井市 JR福井駅周辺の公共施設の活用		
・澤崎ゼミ & 森ゼミ 卒業研究学外発表会「未来への翼」	澤崎 敏文	35
9. 学生の社会的活動報告		
・ひかりの実ワークショップ		36
・レッサーパンダ「メガメガとウルウル」のほめほめLINEスタンプ制作		36
・ネパールでのボランティア活動		37
・栄養研究サークル		38
・じんあいこどものくに		38
・子育て応援団「すこやかふくい2016」		39
10. 学生ボランティア活動報告		
・英語サークル		40
・パソコンボランティアサークル		40
・写真サークル		41
・折り紙サークル		41
・ボランティアサークル		42
・おもちゃサークル		42
11. 平成28年度 地域活動実践センター活動報告		
・管理栄養士国家試験対策リカレント講座		43
・教員の地域活動一覧		44
・平成28年度 教員免許状更新講習		46
・編集後記		49

※敬称略



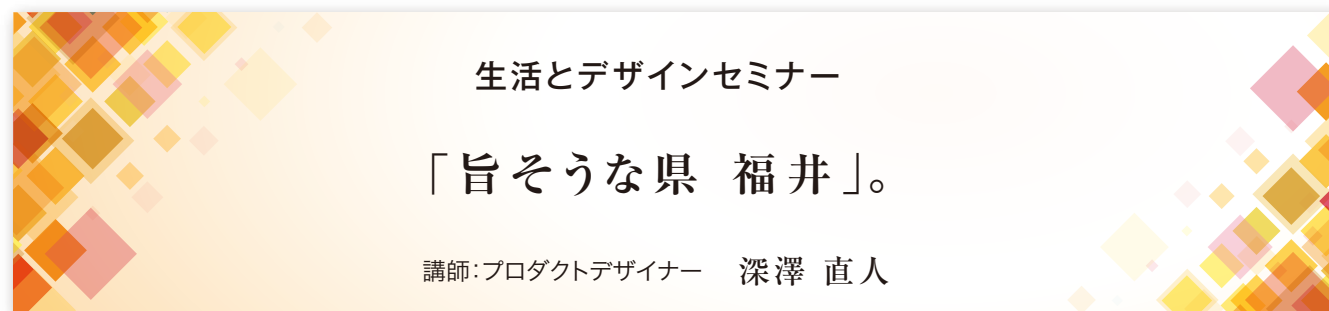
先日、サービ斯拉ーニング（奉仕活動による学び）の一環として学生たちと共にネパールを訪問する機会を得ました。ネパールは世界最高峰エベレストがあることでも知られ、多くの登山家はその頂を目指します。一方で、経済的には決して裕福とは言えない地域でもあり、GDP（国内総生産）は私たちが暮らす福井県の半分程度^(注)です。滞在中は、山岳地域での交流活動をととして、多くのネパールの方々と出会いましたが、そこで一番交わされた言葉は「ナマステ」。滞在したラムチェ村や訪問先の小学校で出会った子どもたちが笑顔で手を合わせて「ナマステ」と声を掛けてくれる姿が今でも目に浮かびます。旅行用ガイドブックなどでは「こんにちは」に該当する挨拶として紹介されることが多いナマステですが、その語源を現地の方に聞いてみると少し事情が違います。このナマステ、前半の「ナマス」は「敬礼、尊敬」を意味し、仏教の南無阿弥陀仏の「南無^{なむ}」とも同じ語源であるそうです。後半の「テ」は「あなた」を意味します。簡単な一言ですが、そこには敬意や感謝が込められており、相手を思いやる言葉だと知りました。

日本では「まちづくり」や「地域活性化」が叫ばれて久しく、そのような地域活動への学生参加を要請されることも多々あります。しかし、そもそも「まちづくり」とはどういう意味を持つ言葉なのでしょう。ハード的な側面から考えると、都市計画

や建築・デザインという視点があります。一方で、ソフト的な側面から考えると、街をどうマネジメントしていくか、そこに暮らす人たちのコミュニティをどうやって形成していくかという視点も重要になってきます。このような状況の中、大学も地域の一員として社会貢献していくことが望まれています。が、「まちづくり」への明確な解答は実践の中だけに存在すると感じています。要するに、行動することが一番大切であるということ。しかし、一方的な自分の思いや自己実現のためだけになっては、せっかくの行動も本意から外れてしまうこともあるでしょう。私たちが考える社会活動実践は、地域の方々との協働であり、相手を、そして地域を理解したうえで実践して初めてその意図が達成されるのではないかと考えるのです。

実は、ネパール滞在中、現地の方々から「まちづくり」や「地域活性化」という言葉を聞くことはありませんでした。しかし、それはもしかすると、日常の中でこれらが当たり前に実践されていることの裏返しなのかもしれません。小さいことからでも、まずは行動してみる。そして、お互いを理解し尊重すること。それらは、本学の建学の精神「仁愛兼済」のなかにも強く表れていると感じています。地域活動実践センターは、今後もそのような地域との橋渡しとしての役割を果たしていきたいと考えています。

注：福井県民経済計算（平成25年度）および在ネパール日本国大使館資料「図説ネパール経済2015」を比較した。



世界で活躍するプロダクトデザイナー。

「無印良品」の監修を手がけ、電子精密機器、インテリア、オフィス文具など幅広い製品を世に送り出し、国内外で活躍する深澤直人氏を、緑の風豊かな9月24日に金津創作の森にお迎えし、平成28年度の生活とデザインセミナーが開催されました。

その仕事と業績は、「MUJI」CDプレイヤー、「±0」加湿器などがニューヨーク近代美術館（MoMA）の永久所蔵品になるなど広く知れ渡り、この公開講座にも県内外から200名を超える多くの受講者が訪れました。



今回の公開講座を告知するフライヤーは、深澤氏がデザインした黒龍酒造の酒器をビジュアルに。



製品開発で、福井県との深い関わり。

午後2時、自然の緑の中の素晴らしい会場で、最初は大きな開口部を解放したまま風を取り入れて深澤氏のセミナーが始まりました。

深澤氏はかねてより福井県のメガネや、越前漆器のデザインにも関わられた経緯があり、近年ジャクエツ環境事業（敦賀市）の遊具のデザインにおいてグッドデザインを受賞されたり、黒龍酒造（永平寺町）の冷酒用極薄グラスの開発を手がけられたことが縁となり、両社の協力を得て今回の福井での公開講座が実現しました。また経済界のみならず、共催として（公財）ふくい産業支援センターデザイン振興部、後援には（公財）金津創作の森財団、福井新聞社、福井県デザイナー協会、FUCA/福井クリエイターズアソシエーション等、多くの機関からの賛同や協力をいただき、製品デザインに関する企画や開発のプロセスについて多くの関心が寄せられていることが実感されました。



ジャクエツ環境事業の幼児向け遊具「OMOCHI（おもち）」。



女性の手のひらに収まり、味の変化が楽しめる黒龍酒造の酒杯（さかずき）。

人間のすべての行為は、 環境に動かされている。

深澤氏のデザインとは「形は環境が既定している。それに対して輪郭を引くのが私の仕事である」と解説。わかりやすい事例を画像で示しながら独自のデザイン哲学や、ご自身の作品について紹介されました。

そして「デザインをする周囲が重要である。主体はさほど重要ではない。どういうものが欲しいかではなく、どんなものが環境に合致するかを考えるのです」と、世界中が注目する深澤氏のデザインの本質をついた説明に、多くの来場者は頷きながら熱心に聞き逃すまいと集中していたのがうかがえました。

セミナー終了後の質疑応答では、(内向的と言われる?) 県内の講演会などでは異例の質問者の多さが際立ちました。終了予定時間を大幅を超えても次々と熱のこもった問いかけが続き、改めて深澤氏の存在感と影響力が人を動かすのだと感銘を受けました。

(文責：西畑敏秀)



事前申し込みの時点で、県内外から数多くの問い合わせがあり、当日も本学の学生以外の来場者が次々と訪れました。



深澤氏のセミナーに、真剣な眼差しで熱心に聞き入る来場者の方々。



終了後の質疑応答では次々と手が上がり、多くの熱い内容の質問が交わされました。



一つ一つの問いに、深澤氏はご自身の考えを丁寧に説明されました。



この機会を逃すまいと、終了予定時刻をすぎても質問が続きました。



会場の設営や・運営も仁短生の必要な役割。



生活情報専攻の田中先生も「アフォーダンス」について質問されました。



金津創作の森のエントランスに掲示された告知ポスター。



緑が素晴らしい自然の中の会場で、来場者をお迎えする準備活動。



深澤直人(ふかさわ なおと) プロダクトデザイナー

2003年 NAOTO FUKASAWA DESIGN 設立。卓越した造形美とシンプルに徹したデザインで、イタリア、フランス、ドイツ、スイス、北欧、アジアなど世界を代表するブランドのデザインや、国内の大手メーカーのデザインとコンサルティングを多数手がける。デザインの領域は、腕時計から携帯電話などの小型情報機器からコンピューターとその関連機器、家電、生活雑貨用品、家具、インテリアなど幅広い。人間とモノとを五感によって結びつける深澤氏の仕事は、より大きな喜びを使い手に届けるものとして高く評価されている。2010～2014年グッドデザイン賞審査委員長。多摩美術大学教授。21_21 DESIGN SIGHT ディレクター。日本民藝館館長。

幼児教育学科公開講座

次世代の心を育む「環境」の役割－現代社会を再考する－

京都大学大学院 教育学研究科 教授 明和 政子

目では見えない「心」の解明に挑む

京都大学霊長類研究所でチンパンジーの研究を15年やってきました。なぜチンパンジーか。それは、今、この地球上に生きている生物の中でヒトにもっとも近いからです。ヒトを知るためには、ヒトだけを見てはなかなか分からない。チンパンジーとヒトを比較し、その差異や類似性を知ることによって「人間とはなにか」を理解したいという動機から研究を続けてきました。今日、私がお話する中で重視したいのは、「ヒトも動物である」という当たり前の事実です。なぜ指が5本あるのか、目が正面に2つ並んでついているのか。そういったことにも意味、進化の過程で生き残ってきた生物としてのバイアスがあるわけです。進化の過程で獲得してきたバイアスは、心のはたらきにも当てはまります。生物としてのヒトの心を正しく知るには、ヒトを生物として見直すことを出発点とすることが必要です。

✓ヒトとは？ ヒトに特有の心のはたらきとは？

私たちは言語を使います。では、言語を使うのはヒトだけか、というと実はそうとも言い切れなくて、例えば、チンパンジーも学習させれば、ある程度のことばを身につけることができます。サル、カラス、ハト、様々な動物が、いわゆるシンボル能力を身につけることができます。では、ヒト独自の心のはたらきの境界はどこにあるのか。その点を明らかにした上で、ヒトらしい心について考えたいというのが私の一番の関心事です。

✓それはどのように、なぜ進化してきたのか

仲の良い友達にこんなことを言われた。すごく傷

ついた。いつまでもクヨクヨしてしまう。友達が嬉しい顔をしていたら私も嬉しくなる。人間の心は揺れ動き、悩みもつきません。ヒトは他人の心にとっても敏感であるのは、ヒトの心のはたらきの特徴です。では、そうした特徴はどのような理由で、長い年月をかけて獲得されたのでしょうか。

✓それはいつ、どのように獲得されるのか

その謎を解く鍵は、心の発達の道すじをたどることにあります。例えば、ヒトは、お母さんのお腹の中にいる時から、すでに心のはたらきの原型をもっているかもしれない。胎児には心があるのでしょうか。あるいは、お母さんのお腹の外に出た瞬間に、心のはたらきのスイッチがオンとなるのでしょうか(生得性)。いつから、どのような心のはたらきが、どのように芽生えてくるかということを、一つひとつ解明する。心のはたらきの個体発生を解明することは、ヒトの心の起源を知るうえできわめて有効です。

チンパンジーとヒトの出産・育児の違い

ヒトはお母さんのお腹の中で9カ月間育って出生します。十月十日という表現は実際には正しくありません。チンパンジーはそれより1カ月ぐらい早く生まれてきます。在胎日数は230日ぐらいです。ニホンザルは168日ぐらいです。出生時体重も、おおよそ在胎日数に比例します。ニホンザルは500グラムぐらい、チンパンジーは1,800グラムぐらい、ヒトは3,000グ



ラムです。ところが、ヒトの出生のしかたはニホンザルのそれと全く異なります。ニホンザルの赤ちゃんはお母さんのお腹側を向いて生まれてきますが、ヒトは多くの場合、お母さんの背中側を向いて生まれてきます。霊長類研究所でチンパンジーの出産に3例、立ち会うことができました。おもしろいことに、チンパンジーも、ヒトと同様にお母さんの背中側を向いて生まれてきます。また、ヒトと同様に、文字どおり床に産み落とします。ニホンザルだとお母さんがそのまま胸に抱きあげるのですが、背中側を向いて生まれてくるヒトやチンパンジーはそうはいきません。床に産み落とした赤ちゃんをお母さんが自ら抱き、授乳させない限り、子どもは死んでしまうのです。動物園で育ったチンパンジーは、2例に1例が育児拒否をするという報告があります。産んだ瞬間、お母さんはパニックに陥り、ギャーッと叫んで子どもを投げつける。食べてしまうこともあります。その理由は、母親が幼少の頃に育った環境、経験によるといわれています。チンパンジーは社会的な動物です。野生下だと20～80個体からなる集団を形成して生活しています。ところが、動物園などで生活するチンパンジーの多くは、幼少期に集団から強制的に隔離されて育ち、集団生活の経験がほとんどない個体です。他個体がどんなふうに子育てをしているのか、子どもとはどんな存在なのかということを見たり、触れたりする経験が剥奪されてきたわけです。そうした異常な養育環境で育ったチンパンジーが出産時にパニックに陥っても不思議ではありません。自分の身体から出てきた存在が何であるのか、わからないのですから。おそらくヒトも、異常な環境のなかで育つと似たようなことが起こると思います。子どもを愛おしく思う、養育動機が高まる母性というものは、生得的に備わっていて出産時にスイッチが自動的にオンになるという性質のものではないのです。

次に、野生チンパンジーを例に、子どもをどのように養育していくかについてお話します。先に触れましたが、野生チンパンジーは集団生活をしていま

すが、出産が近づくとメスのチンパンジーは集団からひっそりと離れていきます。そして、ひとりでどこかで出産をし、一週間ほどしてから赤ちゃんを連れて集団に戻ってきます。

チンパンジーの妊婦さんは、ヒトの妊婦さんと違ってお腹のふくらみが目立ちません。ここにもやはり進化的な意味があるようです。「わたしは妊婦です」という姿を敵にさらすことは危険です。飼育下でおこなったエコー研究からは、チンパンジーの子宮内の羊水量はヒトに比べてかなり少なく、胎児もお母さんのお腹のなかでじっとしていることが多いようです。恐らく、野生チンパンジーの場合には育児拒否はありません。もし、育児拒否をして赤ちゃんをどこかに置き去りにしていたら、赤ちゃんの遺体が発見されるはずですが。野生チンパンジーの研究が始まってから70年近く経ちますが、そのような発見例はいまだありません。現代社会では、子育てがつらいと感じているお母さんがすごく多いようです。なぜこうした事態が起こっているのか。私の結論は、ヒトという動物は母親ひとりだけで子育てする動物として進化してこなかったから、というものです。集団の他の個体と共同養育することで、ヒトは連綿と次世代を残してきたと考えられるのです。お母さんが生きているにも関わらず、血縁関係にない個体が養育を引き受けた(養子として引き取った)例は、野生チンパンジーでは確認されていません。それに対し、なぜヒトは、血縁関係にない子どもを引き取る、面倒をみるということがこれほ



ど多いのか。他個体にとってメリットの少ない（利他的行動）ように思える共同養育が、なぜヒトでは成立したのか。ここからはチンパンジーとはずいぶん違うと思われるヒトらしい心のはたらき、それを生み出す脳機能についてお話します。

ヒトらしい心を育む「環境」

✓子どもを育てる営みは「母性」か？

母性は、遺伝的に備わっているものではありません。生物としてオスとメスがある限り、生体それぞれが生存するために必要なシステムは異なります。その意味で、メスは子どもを産み育てることに有効にはたらく心的システムは持っているはずですが、より重要なことは、それは適切な環境にさらされない限り機能しないということです。

✓子どもが育つ・親も育つ

胎児期から、ヒトの心は連続的に発達します。遺伝（Gene）と環境（Environment）それぞれが相互作用することで、心のはたらき、それを生み出す脳が発達していきます。子育てという観点でいうと、環境としての重要な役割をもつ親の側も発達します。子どもと親の双方向的な営みによって、心のはたらきが創発していくのです。

①胎児期からの心の連続性

②環境としての親の発達

③双方向的な営み

さらに、知っておいていただきたいポイントがもう1点あります。それは、年齢（Age）という要因です。脳の発達において、環境の影響をとくに受けやすい、ある特別な時期があります。これを「感受性期（sensitive period）」といいます。この時期にどのような環境で育つか、どのような経験をするかがとても大事なのです。言い換えると、この時期に異質な環境に置かれて育つことは脳の発達に大きなリスクをとめます。

感受性期について、もう少し説明しましょう。ヒトの脳の神経細胞の数が一生でもっとも多いのは、

胎児期から生後2カ月にかけてです。その後、たくさん持って生まれてきた神経細胞はどんどん死んでいきます。そう言うとなんだか悲しく聞こえるかもしれませんが、それには生存をかけた理由があります。神経細胞をたくさん持って生まれてくるということは、どんな環境で生まれ落ちても適応的に生きてくことを可能にします。例えば、日本語圏で育った者は英語のRとLの発音の聞き取りが苦手ですね。そうした違いを耳にする、経験する環境で育ってきかないから。でも、英語圏の子どもたちは難なくできます。つまり、環境でよく経験する情報を処理する細胞間のネットワークが残っていきます。不要なものは削ぎ落としていく。これを「刈り込み」といいます。視覚情報をおもに処理する後頭葉の（視覚野）の刈り込みは、生後8カ月ぐらいから始まるといわれています。そして、生後2～3年ぐらいで大人のレベルに近づく。環境に応じて顕著に脳構造が変化する時期、これが視覚野における感受性期です。発達初期、生後一年あたりに虐待されるなど異質な環境で育った赤ちゃんは、大人になった時に視覚野の構造に変化が認められるそうです。しかし、ヒトの脳は可塑的です。環境にさらされ、変化しやすい時期はあるけれども、その後に集中的なトレーニング、療育介入によって、脳のネットワークが改善、回復の方向に向かうことも報告されています。また、前頭前野という、思考したり、イメージしたり、高度な認知機能をおもに司っている脳部位の刈り込みはいつ終わるか、ご存じですか。最新の研究では、25歳から30歳くらいまで続くということです。つまり、大学生の脳はいまだ発達途上なのですね。

ヒトの脳発達を科学的な知識に基づいて理解し、どういった保育環境、方法がこの時期に大事なのか、就学期に学校教育ではどのようなカリキュラムを設定することが大事か、思春期の子どもたちに目立つ感情的な行動をどう周囲が理解したらよいのか、などの議論が社会に浸透することがきわめて重要です。

他者の心を理解する 2大神経ネットワーク

✓ミラーニューロンシステム

文字どおり、鏡のように他人の心の状態を映し出すことを可能にする脳の働きです。ミラーニューロンは、1992年にマカクサルで発見されました。サルは、1992年にマカクサルで発見されました。サルの脳に電極を刺して、神経細胞の活動を計っています。このサルの目の前で、研究者が「つまむ」動作をしてみせると、ある神経細胞が発火します。今度は、サルに同じ「つまむ」動作をさせます。すると、観察した時と同じ神経細胞が実際に自分が行ったときにも発火したのです。つまり、「理解できる行為＝産出できる行為」ということです。重要なことは、ミラーニューロンシステムネットワークが処理する情報は、行為の産出と理解が一致しているかどうかということだけであって、自分と他人の心の状態を区別する必要はありません。自分の心に照らし合わせて、他人の心を理解しているだけなのです。だから、鏡なのですね。

✓メンタライジング

これは自分と他人の心の状態が「違う」ことを前提として、他人の心の状態を理解するためのネットワークです。ミラーニューロンシステムの関与にもとづけば、自分がうれしいと他人もうれしい。ところが、メンタライズシステムは、自分はうれしいけれども、目の前の人が悲しそうな顔をしていると、自分は今、嬉しそうな顔を抑制しなければいけない、という理解を可能にします。状況に応じて、自分は今、他人にどのような振る舞いをしたらいいのかを、自分と他人の心の状態を切り離して推論する。その中枢は、前頭皮質です。先にふれましたが、18、19歳の段階では前頭前野はいまだ発達途上です。しかし、就職活動の時には、これは働かせないといけませんから大変ですね。メンタライジングをはたらかせることは、チンパンジーには難しいです。野生チンパンジーは、固い木の実を2つの石をハンマーと台石にして割って食べるという道具使用

をしますが、それを獲得するには5～6年ほどかかります。なぜそれほど時間がかかるのかというと、チンパンジーのお母さんは、子どもに割り方を積極的に教えないからです。手を取って教えることはないし、木の実を割って口に入れてあげることもない。自分は木の実を割れるけど、子どもは割れないという状況を理解することが難しいのだと思います。「教える」という営みは、自分と相手の心のはたらきが異なることの理解を前提としていますから。メンタライズシステムという脳機能の獲得とともに、共同養育という形質がヒトの進化の過程で獲得されてきたのではないか、というのが私の現時点での結論です。南米に生息するマーモセットというサルがいます。手のひらにのせられるほど小さな体をしています。マーモセットは基本的に一夫一妻型で共同養育します。多くの霊長類は一回の出産で一子ですが、マーモセットは2～3個体生みます。では、どうやって育てるのか。ここでお父さんの出番です。一夫一妻という家族制度、絆を形成することによって、お父さん、場合によってはお兄ちゃん、お姉ちゃんも育児に参加して赤ちゃんを抱きます。授乳の時には、お母さんに子どもを移します。

ここからが重要です。子どもを育てた経験のあるマーモセットのオスと、育てた経験のないオスの脳をスライスして、脳の構造変化を調べた研究があります。ここでは、バソプレシンと呼ばれるホルモンの受容体の数を調べました。バソプレシンは別名、愛情ホルモンともよばれ、他個体への親和性、愛情を高める機能をもつといわれています。実際、子育ての場面で多く放出されます。バソプレシンの受容体数が多いということは、バソプレシンが多く放出され、機能していることになります。子育て経験のあるマーモセットのオスの脳では、その受容体の数が多いことがわかりました。どの部位で増えていたかという前頭葉です。ここがポイントです。子どもはなぜ泣いているのか、おしめを替えても泣き止まないのはお腹が空いているのか、次に、なにが起るのか、子育て中は、常に前頭葉をはたらかせて

います。子育てとは、じつはきわめて知的な営みなのです。育休の前後で仕事のパフォーマンスの効率性を比較した研究があります。育休期間中は、前頭葉をフルに働かせる経験を日常的にしているので、育休後の仕事のパフォーマンスがあがるといいます。前頭葉を使うトレーニングが、子育てのなかで自然に行われている。さらに、養育経験にともなう前頭前野の構造、神経回路の変化は、メスだけではなくオスにもみられるという点がたいへん重要です。最近、ヒトを対象とした興味深い研究が報告されました。fMRIの中で自分のお子さんが泣いている映像を見てもらいます。その時に脳のどの部分が早く活動するかを調べた実験です。3つのグループが設定されました。第1グループは、第一養育者がお母さん、お母さんが主に子育てに関わっているグループです。多くの場合がそうですね。2つめのグループは、第二養育者であるお父さん、つまり、日中仕事に行って、帰宅後に育児のサポートをする程度の間接育児グループです。そして、3つめのグループ。ここが重要です。お父さんが「主夫」、お父さんが主に子どもを育てているグループです。とても面白いことがわかりました。第1グループでは、赤ちゃんの泣き声が聞こえてくると脳が素早く反応してしまう、辺縁系、無意識的に感情が沸き立つ脳部位がただちに活動しました。第2グループでは、前頭前野、メンタライズシステムに関与する脳部位の活動が顕著でした。第二養育者であるお父さんは、子どもが泣いた時、思わず脳や心が反応するというよりも、泣いたから「どうしたらいいか」と

推論してからアクションを起こす。どうしても応答に遅延が生じる。そこに、夫婦の溝が生まれるようです。お母さんからみたら、なぜあなたは気づかないの？なぜ子どものようにすに敏感じゃないの？と。しかし、それは脳機能の点からみてしかたのない事実です。面白いのは、第3グループの反応でした。お父さんが日々お子さんに関わっている場合には、第一グループと同じように、辺縁系に関わる部分の活動が顕著だったのです。

つまり、この研究が教えてくれることは、子育てに関与する脳機能は、生物学的な性によって決まっているものではなく、養育経験によって可塑的に変化するという事実です。母性とか父性とか、そういった従来の表現を超え、「親性」と表現するのが妥当でしょう。

最後に

養育は、知的な営みです。メンタライジングという前頭前野の賦活と密接に結びついた高次な認知能力をトレーニングする経験でもある。子どもを育てるという経験を通じて、親も、親の脳も変化する、発達するのです。お母さん、子育て頑張っってね、という支援のしかただけでは無理があります。頑張っってねと声をかける、気持ちを支える、という従来の方法だけでは、親性に関する脳機能を促進することはできません。個々の子育ての悩みを解決するにはどういった支援が必要であるかを科学的根拠にもとづき、妥当に提案することが喫緊に必要な時代がすでに来ているのです。(文責：木下由香)



仁愛食育推進事業

平成28年度 仁愛食育講座

生活科学学科 食物栄養専攻 講師 森 恵見

1、はじめに

年4回シリーズの食育講座は、今年で9年目となります。本年度から担当者が変わり、栄養の面の講義を取り入れ、この講座のレシピを持って帰り、家で子どもや孫と楽しめるような献立にし、食を楽しむことを目的とした内容にしました。学生3名も加わり、参加者の方々と一緒に講座を盛り上げてくれました。また、楽しく作って、食に興味を持ってほしいと思い、今までになかった親子講座も開催しました。



ん、栄養価に関しても相性が良い食べ物です。参加者の方々は「タコをワサビ醤油で食べたり、蛸わさは、利にかなっているのね」と納得されていました。

デザートは、黒糖を使うことで、甘すぎず、甘い物が苦手な方でも食べやすくなります。

2、講座内容

【第1回】6月11日(土)

～父の日の日本料理～

- ・枝豆ごはん
- ・手羽先の甘辛揚げ
- ・ほうれん草の海苔和え
- ・タコのわさび和え
- ・黒糖ブラマンジェ

(参加人数 16名)

父の日が近い開催日だったため、父の日をテーマにした日本料理です。



実は、「父の日」のギフトに使われる市場規模は「母の日」に対して、半分以下です。そしてお父さん達が、父に日に期待することは「家族団らんの時間」、次いで「おいしいものを食べる事」だそうです。そんな父の日に、家族みんなでお父さんのために料理を作って、楽しく食事をして欲しいという願いを込めてこのような献立にしました。

枝豆ごはんを使用した枝豆は、初夏に旬を迎えます。「枝豆をご飯と一緒に炊き込むことが初めてで、とてもおいしい」と好評でした。

タコのわさび和えは、タコとワサビの味はもちろん

【第2回】7月16日(土)

～夏の西洋料理～

- ・にんじんピラフ
- ・ポークソテー チーズケチャップ
- ・とうもろこしスープ
- ・夏野菜のカレーマリネ
- ・はちみつレモンゼリー

(参加人数 12名)

7月は急に気温が上がり夏バテしやすい時期です。そんな夏にとりたい栄養素として、うなぎや豚肉に多く含まれるビタミンB1、にんにく・ニラのアリシン、レモン・グレープフルーツ・梅干しなどのクエン



酸など、いろいろあります。その食材を使った夏を乗り切れる献立です。夏野菜をメインに取り入れ、夏を乗りきって欲しいと思いこのような献立にしました。

にんじんピラフは、炒めた米と一緒に、皮をむき人参を半分に切った大きい状態で炊飯器と一緒に入れました。参加者からは、「人参を刻まなくて良いから、簡単だし、おいしいし、家でもやってみるね」という言葉をいただきました。

ポークソテーでは、豚肉の処理を細かく行い、より丁寧に仕上げました。

とうもろこしのスープでは、缶詰ではなく、旬のとうもろこしを使ってスープを作りました。缶詰を使ったコーンスープとはまた違った味わいで、とても好評でした。

【第3回】8月27日（土）

～親子（おじいちゃんおばあちゃん）企画～

- ・はしまき
- ・きゅうりスティック
- ・おもしろチョコバナナ
- ・ジャム de かき水
(参加人数 12名)



食育講座で初めての親子企画でした。「一緒におうちで夏祭り♪お祭りのメニューを作ってみよう!!」をテーマに献立を立てました。



はしまきには、たくさんの千切りキャベツを入れました。千切りキャベツは、参加した学生が切りました。授業でたくさん練習したので、お母さん方に「上手に切れているね」とお褒めの言葉をいただき、学生も自信がついたと思います。かき水には、シロップを使わず、ジャムでシロップを作りました。きゅうりスティックは、蛇腹切りという手法で、短時間でも味がしみこみやすくなるようにしました。

お母さんと一緒に参加が多かったのですが、その中でも2組がおばあちゃんと参加してくれました。「お母さんのお手伝いはしたことがあるけれど、おばあちゃんと料理をしたのは初めてです。」と小学生の男の子が嬉しそうに話をしてくれたのがとても印象的でした。

【第4回】10月29日（土）

～秋の中国料理～

- ・秋の中華おこわ
- ・きのこシュウマイ
- ・中華コーンスープ
- ・ごま揚げ団子（炸芝麻元宵）

(参加人数 17名)

食欲の秋に、多種のきのこを使った秋の中国料理を作りました。きのこには、発がん防止やコレステロール低下作用など、いろんな効果・作用があります。おこわには、しめじときのこ、シュウマイには椎茸、中華コーンスープにはエリンギとえのきとキクラゲを使った料理を作りました。



ごま揚げ団子は、参加者の方から、「よくスーパーで買うけれど、自分で作れると思わなかった。家で作ってみます。」と喜んでいただきました。

3、おわりに

この食育講座は、短大の実習室を使い設備がそろい広々と使える事や、グループで一緒にできる事、若い学生と一緒に気分が若返る事、料理のレパートリーが増える事等、何かしら良い点があるのではないのでしょうか。

父の日には、平日は一緒に食事をとれないお父さんの健康を考え、楽しく食卓を囲んでいただけたら私も嬉しいです。夏休み中に開催した親子クッキングでは、子ども達同士・親同士の関わりがあり、初めて会ったという方々が仲良く参加していました。親子一緒に楽しめたようで、「満足した」と喜んでいただきました。この講座を通して、これから日本や福井の食文化を次世代につなげ、食育から大切な心とからだを育んでもらいたいと思います。



来年度も、引き続き皆様に喜んでいただけるよう、楽しい内容を考えております。皆様のご参加をお待ちしております。

保育者ワークショップ

アンサンブルから学ぼう！

幼児教育学科 准教授 河野 久寿

～講座要項掲載内容～

テーマ：アンサンブルから学ぼう！

アンサンブルとは2人以上で演奏する事を意味します。アンサンブルを体験し、その意義を考察します。また、様々な楽器が楽器毎にある程度の役割があります。金管・木管、打楽器、キーボード等、楽器を用意しますので演奏してみましょう。得意な楽器がありましたら是非お持ち下さい。歌が得意な方の参加もお待ちしております。最終的には、グループまたは全員でのアンサンブルを予定しています。

～開催期日・場所～

平成28年11月13日（土）13:30～15:00

仁愛女子短期大学E401(演奏ホール)

～実施報告～

1. 参加者、楽曲について

参加者は2名と少数であった。2名とも前年度卒業の選択履修プログラム音楽を選択した保育士で、終始和やかな雰囲気の中進められた。



参加者1名は歌、もう1名はフルートであったため、河野（シンセサイザー）、本学准教授木下由香（ピアノ）、計4名でのアンサンブルを行った。

時期的な事を考慮し、演奏難易度も低い「きよしこの夜」、またそれよりも少し長くアンサンブルの難易度も高い、昨今広く知られた楽曲「花は咲く」の2曲を、歌、フルート、シンセサイザー、ピアノ編成にてスコアを用意した。

また、演奏したものを録音し、演奏後全員で聴き、修正点を確認しながら、その場での最良のアンサンブルを目指した。

2. アンサンブル実施内容

最初にウォーミングアップも兼ねた「きよしこの夜」を演奏した。フルートの学生は、保育職に就きながら一般の吹奏楽団体にも所属している実力の持ち主で、歌の学生も、伸びやかな聞き心地の良い声質の学生であり、その場で楽譜を見ながらの初見演奏でも問題なく演奏できた。

次に2曲目の「花は咲く」を演奏した。
この曲に関しては、歌担当の学生があまり知らない



様であったが、まずは歌メロディーの音を取り、おおよそ歌えるようになった段階でアンサンブルを行った。

何度か演奏・録音の確認を繰り返し、徐々に楽曲に慣れ、最終回の演奏では、「花は咲く」が持つ楽曲としての想いをしっかりと表現するものになった。

～おわりに～

今回の参加者は2名と少なく開催も迷うところであったが、限られた時間内で、アンサンブルが持つ同じ時間軸の中で息を合わせる、また音楽の表現方法としての楽しさを経験するよい機会になったのではと考える。また、卒業生が元気な姿を見せ、終了後も歓談する事ができた事も大変有意義であった。



平成28年度保育者ワークショップ

「アンサンブルから学ぼう！」 アンケート結果

1. 職業について

・保育士(勤務10年未満) …………… 2人

2. 本日の講座への参加理由について

・講座内容に興味を持ったから…………… 1人

・本学からの案内…………… 1人

3. 本日の講座内容について

● 満足度

・満足… 2人

● 感想

- ・久しぶりの短大で、好きな音楽をたっぷりさせて頂いて、すごく充実した時間でした。子どもたちの前でも演奏したいと思います。
- ・楽しく参加できた。

保育者ワークショップ

子どもと保育者の心を開放するクレパス画体験

幼児教育学科 准教授 賞雅 さや子

【講座趣旨】

このワークショップでは、クレパスで何かを描くのではなく、好きな色を好きなように塗ったり、重ねたり、ひっかいたりして遊びます。このような活動を通して、絵画の苦手さから子どもを開放し、気持ちを表せたらスッキリすることや、自分の中から表れてくる表現を受け入れることの心地よさを実感します。保育者自身も日常から少し離れて「心の開放」体験をしてみたいと思います。



【開催日時】

平成 28 年 10 月 29 日（土）13:30 ～ 15:00

【講座内容】

クレパス画体験は、まず、クレパスの巻紙をむいてしまうところから始まります。多くの人は最初ためらいますが、ビリビリと紙を破くのがだんだんと楽しくなってくるようです。

クレパスという素材は、唯一日本で生まれた画材です。クレヨンが顔料 2 割＋ロウ 8 割なのに対して、クレパスは顔料が 8 割です。そのために画用紙の上で自在に混色が可能なのが特徴です。巻紙をむいて

描くということは、顔料をそのまま手で持って描くということになり、それは描く人の感情をそのまま表現しやすくなるということにつながります。

裸になったクレパスをポキンと持ちやすい大きさに折り、四辺を新聞紙の上にマスキングテープで留めた画用紙に描いていきます。

絵画には「形」と「色」の要素がありますが、一般的な絵画指導の場合、形の中に色をはみ出さないように塗ることを要求します。しかし今回のクレパス画体験では、ただ好きな色を好きなだけ塗る、それだけをひたすら納得するまでやっていきます。「色」は情感を表すと言われますが、このクレパス画の手法は、「情感を解き放ち、その心地よさを実感する」ための手法だといえます。

ワークショップでは、最初はハガキ大の用紙に 1 色のクレパスを塗ってみました。顔料を直接手に持ち、ゴシゴシと塗り付ける心地よさを感じ、さらにその塗ったところを指や手のひらで伸ばしてみます。たった 1 色を塗っただけの作品でも、マスキングテープをはがし、参加者の作品を並べて鑑賞すると、選んだ色、重ねた顔料の厚みなど、どれ一つ同じものではなく、そこに「自分」が表れてくるのに驚きます。



要領がつかめたら、後は好きな色を何色でも使い、画用紙の大きさも自由に変えながら、何枚でも描いていきます。色を塗って伸ばすだけでなく、何色も重ねた色を削る、ひっかくなどさまざまな技法を試しながら表現します。指導者は、頭の中にイメージしたものを画用紙の上に再現しようとするのではなく、その瞬間の色や技法の選択とそれを行っている自分の感覚をじっくり楽しみ、味わうことを促します。そうしていると思いがけない色が表れてきたり、はみだしたり、ひっかいた傷ができてしまったりといろいろなことが起こりますが、そのどれもが失敗ではなく、大切な表現の要素となっていることに気付きます。

ここでは何をしてもいいのだということが飲み込めると、最初は遠慮がちに取り組んでいた参加者の皆さんも、自由な発想で、マスキングテープを貼ってみたり、ヘラや竹串を使ってみたりと工夫しなが



ら、時間を忘れてゴシゴシと手を動かしておられました。ゆっくりと自分に向き合う時間となったのではないのでしょうか。

最後は、皆さんの作品を並べて鑑賞し合いました。短い時間での体験でしたが、改めて並べてみると出来上がった作品の多様さに感動します。自分から表れてくる表現に驚いたり、表現に没頭することの心地よさを実感したり、何より、そこに表れてくるものは自分の中から浮かび上がってきたものに他ならず、その個性の違いをそれぞれに感じてくださったようでした。「自園の子どもたちともぜひこのような時間を持ちたい。」とおっしゃってくださった方もいらっしゃいました。クレパス画を通して、子どもたちが自分の心の中を開放できる時間をもっと保育の中に作り出すことができたらと願います。

【引用・参考文献】
「子どもの心を開放する絵画療法講座」『保育者養成校大学教員と園のリーダーのための保育特別講座テキスト』（子どもと保育研究所 非売品）

新人保育者スキルアップ講座

幼児教育学科

本学幼児教育学科卒業生の多くは、幼稚園や保育所、こども園などで幼児教育・保育の仕事に携わっています。社会人として責任が伴う現場では、学生時代とは異なる苦労や悩みの連続かもしれません。働き始めて3か月。新しい職場にも少しずつ慣れ、新人保育者として益々力を発揮していけるように、実践能力の向上と同期生との情報交換を目的として開催しています。今回は、平成28年3月に卒業した新人保育者20名が参加しました。



日時／平成28年7月10日（日）13:00～15:30

場所／E 306（図工演習室）

内容／【実技講座】13:00～14:00

「クレヨンで動物を描きましょう」

講師：重村幹夫先生

絵を描くのは苦手と思っている人もいます。ここでは、クレヨンで直接描くのではなく、画用紙に穴を開けてそこにクレヨンを擦り込んで絵にしていきます。そうすると、簡単にとても綺麗な絵になります。

【分科会】14:15～15:30

「友人と語ろう」

当時のクラスアドバイザーの先生方にも御参加いただきました。

この講座に参加した理由には、「久しぶりにみんなに会いたかったから。」「友達や先生と話をしてリフレッシュしたいと思ったから。」「実技講座が楽しそうだったから。」「自分の保育園とは違った園の話を聞きたかった。」などのコメントがありました。



講座を終えて、「思ったより簡単に楽しかったし、役に立った。」「クレヨンの新しい使い方を発見できたので、子どもたちの遊びや保育室の壁面に活用したい。」などの感想をいただきました。

分科会については、「みんな色々な悩みを抱えながらも頑張っていると知り、自分だけじゃないんだと思いました。私も明日からまた頑張ろうと思いました。」「自分と違う考え方でアドバイスを聞いて役に立った。」などの感想をいただきました。



本講座は、共に学んだ友人や教員との交流によって、現場で役立つスキルを学ぶ場としてだけではなく、卒業生に活力を与える場としての役割も果たしていると感じました。今後も多くの卒業生にこのような場を利用してもらいたいと思います。

（文責：木下由香）



卒業生情報交換会

幼児教育学科

日時：平成28年10月15日（土）14:00～15:00

場所：C323

本学幼児教育学科を卒業して4～6年目の保育者を対象とし、「幼教フォローアップ講座」を開催してきましたが、昨年度は参加者数が少なかったためやむを得ず中止となりました。幼児教育学科教員メンバーの顔ぶれも変わってきており、教員と卒業生の接点を持てる機会を作ることができないだろうかと話したところ、大学祭という大勢が賑わう日に気軽に参加していただこうと「卒業生情報交換会」として開催を試みるようになりました。

参加者は2名とかなり少なくなりましたが、新築さ

れた新C館の一室には多くの先生方が御出席くださり、近況報告や退官された先生方の思い出話、職場での悩みに対する先生方からのアドバイスなど和気あいあいとした歓談が行われました。

「久しぶりの短大でしたが、いろんな話が聞けて楽しかったです。」「学祭に来て、新しい学舎で懐かしい話や情報交換ができて楽しかったです。これからもこのような会を企画していただけるとありがたいです。」という感想をいただきました。

（文責：木下由香）



Microsoft Excel 基礎講座・応用講座

情報メディア教育支援室

1、活動方針

情報メディア教育支援室では福井ライフ・アカデミーと連携し、本学の夏休み期間中に情報系の講座を開講しています（例年9月初旬）。対象は本学の学生や教職員、一般の方です。この講座では、ソフトウェアや情報機器の使い方を知ってもらい、それらを仕事や日常生活の中で有効に活用してもらうことが目的です。

一昨年度までは、タブレット「iPad」の初心者向け講座なども行っていましたが、昨年度は「Excel基礎講座」と「Excel応用講座」の二つを行いました。今年度も同様の内容で開催しました。

2、取り組みと成果

Excel基礎講座を2016年9月4日(日)に、Excel応用講座を同年9月11日(日)に行いました。時間は両日とも9:00～15:00です。参加者は一般の方のみで、それぞれ16名と13名でした。昨年度よりもやや増加しました。

Excel基礎講座は、例年通りの内容としました。Excelの基礎から学んでもらい、家計簿など普段の生活の中でExcelを活用してもらうことを目的にしました。データの入力方法、数式・関数の入力方法、書式の変更方法、グラフの書き方といった、Excel操作の一連の流れについて説明を行いました。受講者の方には実際にExcelの操作を練習してもらい、そのあとに問題を解くといった流れで進めていきました。



図 1:9/4(日) Excel 基礎講座の様子

Excel応用講座は、やや高度な内容を取り扱いました。住所録等のデータベースの基礎的な取り扱いや、入力時のデータ制限など、実用的な表を作れることを目的としました。具体的にはテーブル（並べ替え、フィルタ）、入力規則、関数などを取り扱いました。進め方は基礎講座と同様です。



図 2:9/11(日) Excel 応用講座の様子

3、まとめと今後の課題

昨年度、講座の内容をExcelに焦点を絞り、「基礎」と「応用」について行い一定の好評を得たため、今年度も引き続き同じ内容で講座を行いました。応用的な内容を取り扱うことで、Excelについてより深く理解していただけたと思います。講座後に調査したアンケート結果でも、昨年度同様に好評を得ることができました。

今後検討すべき内容としては、昨年度も課題にした通り、PowerPoint、Word等を講座で取り扱うことで、今後検討していきたいと思います。

以上のように、今年度は昨年度同様の内容で一定の評価は得られたかと思います。しかし、内容、開催日数など改善すべき点もまだまだあると思われます。今後もさらに参加者の方に満足していただけるよう、改善をしていきたいと思っています。

地域連携

森田地区まちづくり協議会と
仁愛女子短期大学との連携事業報告

地域活動実践センター長 澤崎 敏文

「森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定」が平成22年8月30日に締結されました。この協定に基づいて、平成28年度も相互に連携・協力して様々な事業を展開してきました。

1 森田・仁愛女子短期大学連携協議会

「平成28年度森田・仁愛女子短期大学連携協議会」が、平成28年6月24日、仁愛女子短期大学で開催されました。森田地区から林 進一自治会連合会会長他6名が、本学から禿 正宣学長他6名が出席しました。



森田地区の出席者（自治会連合会会長：林 進一、同事務局長：小寺修司、運営審議会委員長：横山芳樹、文化委員会委員長：高木荘治、同副委員長：勝見祐昌、公民館館長：柳原健一、森田公民館主事：吉田智子）



仁愛女子短期大学の出席者（学長：禿正宣、副学長：島田貢明、学生部長：内山秀樹、事務長：吉川

敏通、地域活動実践センター長：澤崎敏文、同主任：木下由香、事務：小角佳子）

協議事項は、平成27年度に実施した連携事業の報告及び平成28年度実施予定の連携事業について行いました。

2 公民館と地域活動実践センターの事務打合せ

事務レベル協議が、平成29年1月25日に仁愛女子短期大学で開催されました。森田地区からは高木荘治文化委員会委員長、吉村公司森田公民館館長、吉田智子公民館主事が、本学から内山秀樹教授、澤崎敏文地域活動実践センター長、木下由香地域活動実践センター主任、小角佳子センター事務が出席しました。打合せ内容は、平成28年度の振り返りと平成29年度実施予定の連携事業等について話し合われました。

3 継続事業

本年度の継続事業には、もりた夢駅～夏物語～（7月10日）、もりたエコキャンドル（7月30日）、森田地区文化祭でのパウンドケーキの販売（10月16日）等があります。

これらの他、森田駅の夢ギャラリー森田に作品展示を実施しました。本年度は本学附属図書館による特別展示「50周年回顧展～建学の頃 昭和40年～45年」



(9月1日～28日)を開催。新聞等でも報道され、多くの方々に知っていただくことができました。

また、本年度も引き続き、学科・専攻やサークルの展示を行いました。生活環境専攻(5月)、生活情報専攻(7月)、附属図書館(9月)、写真サークル(10月)、幼児教育学科(1月)、食物栄養専攻(3月)。

「英語であそぼ」講座を本年度も行ないました。これは26年度から本学生活情報専攻野本尚美講師により、森田公民館にて開始したものです。本年度は、昨年同様に、会場を公民館だけではなく、児童館まで広げて実施しました。回数を増やし、生活情報専攻学生5名の学生もアシスタントとして参加しました。森田第1児童クラブ27名(8月10日)、森田第3児童クラブ19名(8月19日)、森田第2児童クラブ26名(8月23日)、すみれ児童館47名(8月24日)、森田公民館4名(8月26日)と多くの児童の参加がありました。



また、森田地区の方への本学附属図書館の利用サービスも実施しました。本年度は、新規利用申請者7名、利用人数37名、貸出冊数29冊でした。



『図書館利用サービスの説明(九頭竜大学見学時)』

4 森田地区(九頭竜大学)の本学キャンパス見学会

森田公民館では、教育事業の一環として高齢者学級の九頭竜大学を企画しています。本年度はその一環として、7月20日に九頭竜大学の本学キャンパス見学会を実施しました。今年度は澤崎ゼミの中間発表会に参加していただき、発表内容について学生と意見交換をする等、学術的な交流も深めることができました。また、図書館見学、図書館利用サービスの新規登録、学食体験等を行いました。



『授業参加、ゼミの中間発表での意見交換』

5 仁短祭、森田文化祭での模擬店出店

九頭竜大学の方12名による、本学大学祭への模擬店出店が10月15日に実施されました。また、翌日10月16日に森田小学校で開催された森田文化祭には、本学から栄養サークル、写真サークルの学生が参加しました。このように大学・地域の祭に相互参加することで、学生との相互理解・交流が図られました。



『森田文化祭での模擬店出店と交流』

福井市との包括連携事業

街の賑わいを、街の魅力を作り出すプロジェクト 「フクイ夢アート2016」に参加しました。

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 西畑 敏秀



モンスターに仮装した仁短生たちが、街中の子供たちにお菓子をプレゼント。

「フクイ夢アート」は、アートを通じて人と人、人とまちを結びつけ、まちの賑わいを、まちの魅力を作り出す今回で7回目のプロジェクトです。県内外のアーティストをはじめ、地元商店街や市内の大学、行政などが、様々なアート企画を持ち寄り、10月2日(日)～30日(日)までの29日間、まちなかがアート一色に染まりました。生活デザイン専攻の1・2回生全員が、期間中ガレリア元町の空き店舗を活用した夢アートステーションで、西武福井のだるま祭りで協力した88体のオリジナルだるまの展示や、ハピテラスで子供たちに参加してもらう「ひかりの実ワークショップ」を展開しました。また、駅前商店街の各店舗を取材し、イチオシ商品やサービスを写真とコピーでポスターに仕上げる企画や、最終日には恒例の仮装して街を練り歩くハロウィンパレードも一般市民と合流して盛大に開催。今年の仮装テーマは「モンスターズ・オリンピック(閉会式)」。仁短生の若い力で街中を大いに盛り上げました。



西武福井の88周年だるま祭で展示した仁短生の作品を展示。



夢アートステーションとハピテラスで「ひかりの実ワークショップ」を展開。



駅前13店舗を取材して「イチオシポスター」をデザインして展示。



新しくなった福井駅西口周辺を、一般の方々と混成して大パレード。

福井市との包括連携事業

特産野菜・ふくいサラダニンジンプロジェクト

「きやろふく」ネーミング・ロゴマークを作成しました。

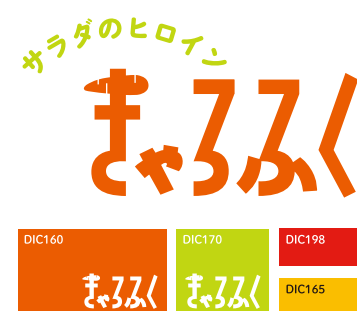
生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 西畑 敏秀



福井市の新たな特産野菜を目指して、福井市園芸センターが開発を進めたふくいサラダニンジンのネーミングとロゴマークデザインを、2回生のプロジェクトチームが中心となって約1年かけて制作しました。9月16日には同センターで間引き作業と肥料散布を体験。11月30日には東村福井市長とともに、収穫作業と記者発表を行いました。ネーミングは生活デザイン専攻の1・2回生の約200の案から選定され、1回生・山本美穂の「サラダのヒロイン」がキャッチフレーズに。ロゴマークは2回生の上坂美帆のデザインが採用されました。ニンジンが苦手な人でも、生でサラダで食べられるという味わいや、オレンジ色の濃淡、黄色の3色のカラフルさなど商品の特性を表現しました。学生たちは、記者会見の会場でもきやろふくのサラダや煮物、ジュースなどの試食を体験。きやろふくは今後福井市の特産野菜として学校給食でも使用され、新しいロゴマークはパッケージや広報活動などに展開されるということです。



福井市園芸センターで行われた、記者会見に同席し発表しました。



商品特性を活かした縦長の文字とカラーリングでニンジン象徴。

福井市との包括連携事業

もりた夢駅2016～夏物語

～福井大“遊房”と初のコラボ～

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

コミュニティデザインの授業の一環として、2008年から「もりた夢駅」に参画してきました。この取り組みは、森田駅を中心に歩いて暮らせるまちづくりを進めるために、住民の皆さんにとって駅を身近な存在に感じていただくための取り組みのひとつで、森田地区文化委員会が主催し、生活デザイン専攻生が企画、実行に参画しました。

今年の特記事項は、2回生の環境デザインのゼミ生4人が、福井大の学生グループ「遊房」とコラボして企画の検討、実施のための準備を行ったことです。延べ6回にわたる会議を重ね、アイデア出しから絞り込み、絞り込み企画の掘り下げ、文化委員会での説明、検討、決定と一連の流れに参画しました。当初は初対面でなかなか意見を言うこともできなかったのですが、打ち合わせ会場を交互にお互いの大学で行うことにより、徐々に打ち解けてきて、活発な意見交換ができるようになりました。一連の企画、準備作業のうち、本学はPRビラのデザインと子ども向けのブース出店を担当しました。地元文化委員会は森田駅周辺でのクイズラリーや飲み物コーナーなどを担っていただきました。

今回のメイン企画である「トレインアドベンチャー」は、バスや電車に乗ったことがない子どもたちが多く、自力で公共交通機関を利用できる



担当したチラシ



トレインアドベンチャー

ようになってもらおう、という企画です。保護者は同伴せず、自分たちの力で森田駅から福井駅にいき、駅周辺でのクイズラリーを楽しみ、戻ってくることを通じて時刻表の読み方、電車利用の仕方、福井駅周辺での楽しみ方などを学ぶプログラムです。

ブース企画は、1回生が「地域環境論」の授業の一環として5つのグループに分かれ、子ども達に鉄道や森田に関する企画を検討しました。その結果、「オリジナルうちわを作ろう」、「夢でつながりもりタウン」をはじめ、5つの企画に取り組みました。

今回は子どもが約100人、大人も含めて約150人以上の参加をいただき、見に来られた福井駅駅長さんが急ぎょ戻ってJRグッズを用意するなど、子どもたちにとっても関係者にとっても一定の評価をいただきました。



暑かったけど、楽しかったね！



オリジナルうちわを作ろう！

福井市との包括連携事業

もりたエコキャンドル2016

～メインアート部門、グループ部門 W受賞

生活科学学科 生活デザイン専攻 教授 内山 秀樹

今年で5回目を迎える森田地区のエコキャンドル。卒業生5人も参加しているPRもりたや北部地区商工会青年部が中心となって開催されました。今年も企画段階から本番まで、生活デザイン専攻1回生、生活環境専攻2回生の学生も参加。1回生は「地域環境論」の授業の一環として、デザイン画への応募、公民館でのエコキャンドルづくり、当日のスタッフとしても参加、環境デザイン研究室の2回生は準備段階の実行委員会にも参加しました。

公民館でのキャンドルづくりは、芯づくり、やかんで温めた廃油をカップに注いだり、着火棒づくりなど、皆が初めての体験でした。

メインアートのデザインは、森田の住民でもある生活デザイン専攻1回生荒井里緒奈さんが見事最優秀賞！。タイトルは『もりたんfamily』で、まちづ

くりが進み新しい住民が増えている森田が、老若男女、新旧住民がともに夢と希望をもって仲良く楽しく住み続けられる街になってほしいという願いを込めてデザインしたとのこと。他に本学からは、生活デザイン専攻1回生の石田彩子さんと奥田有紀さんが優秀賞に入賞。また、今年から新設されたグループアート部門には6グループがエントリーし、これも生活デザイン専攻1回生Bグループの「花咲く森田」が最優秀賞を獲得しました。

7月30日(土)、晴天の会場の九頭竜川河川敷では地区の人口と同じ約1万2千個のキャンドルが、「もりたんfamily」や「花咲く森田」を浮かび上がらせ、見る人に感動を届けました。来年度もさらに感動を与えるデザインで積極的に参加したいものです。



炎天下での作業に汗！

メインアート 最優秀賞
荒井里緒奈さん

キャンドルづくりに挑戦



闇夜にうかび上がった『もりたん family』

グループアート最優秀賞
『花咲く森田』(Bグループ)

福井市との包括連携事業

ふく² ベジ・ファースト応援事業
越前福井の美味PR事業

生活科学学科 食物栄養専攻 教授 牧野 みゆき

「ふく² ベジ・ファースト応援事業」は若い世代からの適切な生活習慣の普及啓発のため、「ベジ・ファースト（野菜から食べる）」をキャッチフレーズに、学生自らが健康行動を情報発信し、同世代の人たちをはじめ広く市民に健康づくりを浸透させ生活習慣病を予防することを目的とするものです。

福井市（保健センター）より、食を通じた健康づくりを推進するための情報発信役として、食物栄養専攻の学生（栄養研究サークルの学生）8名がベジ・ガールズに任命されることになり、7月15日に本学において「ベジ・ガールズ任命式」と「ロゴマーク・ポスターお披露目式」が行われました。生活デザイン専攻の南山英里さんが考案したロゴマークの入ったお揃いのポロシャツを着て、福井市保健センターの職員の方々とベジ・ガールズは活動することになりました。



平成27年は「食育推進事業（食育啓発重点事業）」として、野菜を使った「パパッと簡単レシピ集」を作成したところ好評だったようで、平成28年は「越前福井の美味PR事業」として第2弾を作成することになりました。食物栄養専攻の2回生全員が考案したレシピの中から厳選した21品をもとに、福井市がレシピ集を作成しました。

10月2日の福井市食育フェスティバルにおいて、午

前中は西武福井店とアップロード特設ブースの「ふくい一押し」の『もう一品！（逸品）』レシピ紹介コーナーで簡単野菜レシピの展示・配布と、おなじみのパウンドケーキの販売をしました。この簡単野菜レシピは日本最大の料理サイト「クックパッド」の福井市公式キッチンでも紹介していますので、ぜひご覧ください。



10月2日の午後はハピリンホールでの健康フェアにおいて、食べる順番を変えるだけで生活習慣病予防となる方法「ベジ・ファースト（野菜から食べる）」を実行することを、若者代表としてベジ・ガールズがステージで宣言しました。このあと、テレビでおなじみの料理研究家の浜内千波さんによる記念講演会「はじめようベジ・ファーストで健康づくり」があり、実践方法などが紹介されました。

10月15日の仁短祭、10月16日の森田地区文化祭での栄養研究サークルのパウンドケーキ販売のブースでも「ベジ・ファースト」のPRに努めました。



2月19日には福井市のベジ大使である道端カレンさんと東村福井市長による「ベジ大使トークショー」の前に、「ベジ・ガールズ」の活動報告の時間が設けられ、坪内香澄さんと森景夕依さんが食物栄養専攻での学びやこれまでの活動について紹介しました。

栄養研究サークルの学生は、積極的に活動してきました。後輩たちにも引き続いてさらに事業の普及に努めたいと思います。



福井市との包括連携事業 輝く女性の未来予想図事業 「仁短♥ガールズトーク」 幼児教育学科

本事業は、若い女性が地元福井で就職・結婚・子育てといった未来予想図を描き、その実現の一助となることを目的として、女性活躍促進課と幼児教育学科が連携して開催したものです。

日時：平成28年10月19日

場所：仁愛女子短期大学

講師：(50音順)

- 生駒亜希子氏 福井市社保育園
- 清水佐智代氏 福井市上北野保育園
- 轟由希氏 認定こども園福井俊成幼稚園
- 南北香苗氏 福井市啓蒙保育園
- 宮腰未来氏 福井市森田浜保育園

今回は、幼児教育学科全学生230名を対象として、本学の卒業生で保育者としての経験が比較的に長い5名を講師として以下の5つのテーマでパネルディスカッションを開催しました。

- ①学生時代にやっておくと良いこと
- ②これからの保育者に必要な資質や素養
- ③仕事の成功談・失敗談
- ④結婚・出産などのライフイベント
- ⑤結婚後の仕事と家庭の両立

これらのテーマに関して事前にアンケートを実施し、学生が知りたいと思う話題について重点的にお話をして頂きました。



「発表会での子どもたちの成長を見ると、この仕事を続けてよかったと思う」や「ピアノや手遊びをもっと勉強しておけばよかった」といった話題に多くの学生が納得した様子で聴講していました。また、「仕事で失敗したときに、(思いがけず)園で子どもに慰められることがある」との話題では、学生の各々が実習での経験を振り返る機会となったようです。

さらに、「仕事が終わっても家事があつて大変だが、園の子どもたちに元気づけられる」ことや、「仕事場であつた嫌なことも、家に帰って子どもたちと遊んだり話したりすることで癒される」など仕事と家庭を両立する保育者ならではの話題に、多くの学生が共感したようです。

「そもそも自分が結婚することや出産することが想像できない」と発言していた学生もあり、学生にとっては自分の未来予想図を描けと言われても簡単ではなかったようです。しかし、様々な経験をされた講師の方のお話を聞いたことで安心した部分と、身を引き締めなければと思いを新たにする部分があったのではないのでしょうか。

(文責：中尾繁史)

図書館企画展示の活動報告

附属図書館

図書館では、月1回のペースで企画展示を行っています。その活動内容をご紹介します。閲覧は可能ですので、是非ご来館ください。また、本学卒業生と森田地区住民の方には貸し出しを行っています。詳細は附属図書館ホームページ(<http://www.jin-ai.ac.jp/lib/>)をご覧ください。

●2016年4月「本屋大賞受賞作品展」

2016年本屋大賞受賞作『羊と鋼の森』宮下奈都著をはじめ、候補作品9冊を展示しました。



●2016年5月「50周年回顧展」

2015年に短期大学50周年を迎え、それを記念して「開学50周年回顧展」を開催しました。開学から5年（昭和40年～45年）の懐かしく貴重な所蔵写真約60枚を選び展示しました。9月には、同展示を夢ギャラリー森田（JR森田駅内）でも開催しました。



●2016年6月「創作絵本展」

本学の生活デザイン専攻2回生が“デッサンⅡ”の授業（1回生後期）で創作した17作品を展示しました。絵もストーリーも、世界に一つしかないオリジナル絵本を紹介しました。



●2016年7月「仁短文庫」

図書を介したコミュニケーションの場として、利用者が自由に本を持ち寄る「仁短文庫」コーナーを設置しました。20冊の本が集まり、46件の貸し出しがありました。



●2016年8月「折り紙サークル作品展」

折り紙サークルの作品を紹介しました。同サークルは、折り紙を通じて地域に貢献しています。



●2016年9月「図書館サポーター選書本」

図書館サポーター6名が書店で選書した図書やCDをおすすめのコメントを添えて展示しました。



●2016年10月「仁短文庫A-Z」

岩手県の書店から全国の書店へ広がりをもせた「文庫X」をヒントに「仁短文庫A-Z」として実施しました。これは、書名・著者名・中身を隠すカバーをかけ、情報源はカバーに書いてあるキーワードのみという状態で貸し出しをしました。



●2016年11月「重村先生作品展」

幼児教育学科重村先生の作品「森Ⅱ（池田町）」を展示しました。こちらの作品は、10月に国立新美術館で開催されていた「二紀展」で展示されていた作品です。



●2016年12月「第4回青空文庫表紙コンテスト」

Webサイト「青空文庫」には著作権の切れた古い文学作品が掲載されています。その中から3作品を図書館側が選び、他の人がその作品を読んでみたくなるような表紙に仕上げ、応募してもらいます。優秀賞受賞者には、副賞として図書カードと作品を表紙にした文庫本を贈呈しています。



●2017年1月「小倉百人一首大会」

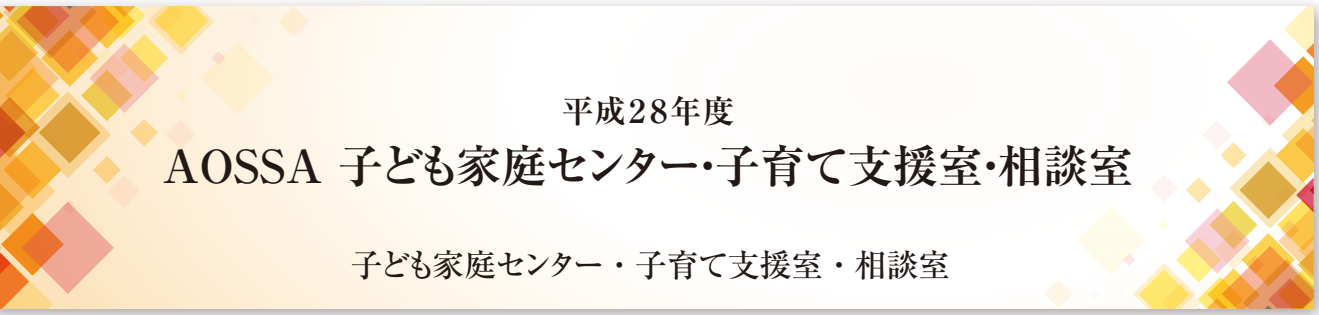
この大会は、百人一首を通じ親交を深めることを目的に行われました。授業の空き時間や、お昼休みなどに来館していただき38名の参加がありました。



●2017年1月「さよならA館上映会」

短大発展の中心として存在したA館の解体工事等の写真約200枚をスライドにまとめ上映しました。今後も、図書館がコミュニケーションの場になるよう、様々な企画を実施していきたいと考えています。





当センターは、開所10年目を迎えました（第1期：平成19年度～平成23年度；第2期：平成24年度～平成28年度）。今年度は、第3期（平成29年度～平成31年度）の運営にあたり、プロポーザル方式により受託業者の公募が行われました。書類による一次審査、プレゼンテーションによる二次審査を経て、福井仁愛学園に委託先が決定されました。

開所以来当センターは、図1のような目標で地域の子育て支援の在り方を考え、福井市の中心市街地に最適な子育て支援センターづくりに努力してきました。子育て支援ボランティアの養成や、子育て支援関連団体との共同行事、仁愛女子短期大学幼児教育学科の学生やボランティアサークルと一緒にの児童虐待啓発運動、公立保育所への出張相談活動、転勤族家庭に対するママ友づくり支援、子育て支援に関する情報発信、地域の公民館での出張子育て広場など、これらの実績は、福井仁愛学園が受託した当センターならではの特色であると思っています。

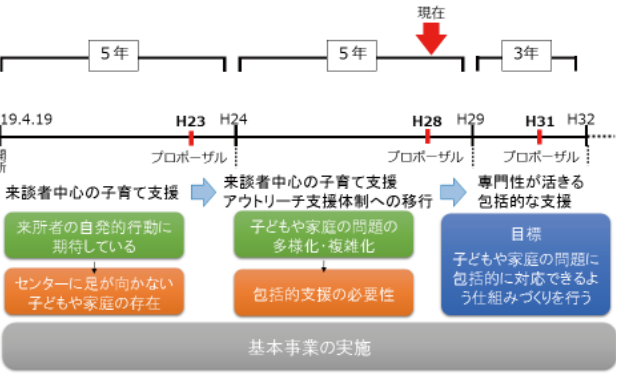


図1. センターの課題設定と目標

さて、平成29年度からの当センターの事業ですが、子育て支援室および相談室の基本業務として、以下の内容で行います。

【子育て支援室】

①子育て親子に広場を開放：子育て親子が気軽に集え

る場として、環境を整える

②子育て講座の実施：子育て親子のニーズに沿った子育て講座を実施する

③子育て相談：子育てに関する悩み相談を受ける

④子育て情報の発信：市内の保育園情報、地域の子育て機関紹介、的確な情報発信をする

【相談室】

①子ども相談：18歳までの子どもの相談に対応する

②女性相談：様々な悩みを持つ女性からの相談に対応する

②子育てママダイヤル：特に乳幼児期の子どものことに関する電話相談に対応する

③専門相談：小児科医師、弁護士による専門相談を、それぞれ月に1回開催する

④福井市要保護児童対策地域協議会：児童虐待を防止するための協議会へ参加する

また、平成29年度から3か年の目標として、子どもや家庭の問題に包括的に対応できる仕組み作りを行うことにしています（図2）。子育て支援室は、地域の子育て親子に十分な支援を実施することを目標に、特に不死鳥地区の子育て親子へ様々な企画を行います。高齢者や若者（学生）、子育て親子が集えるイベントや、地域の伝統行事への参加、子育て関連団体との協働企画など地域の社会資源を取り入れた子育て支援の展開を考えています。

相談室は、来所による面接相談は専門的に行なっていますが、相談者の「生活の場」で何が問題になっているのかを的確に把握し（アセスメント）、包括的に対応していくことを目標としています。そのために、子どもの家庭・地域・保育園・幼稚園・学校における生活環境の評価シートを作成し、アセスメント機能を強化します。社会福祉士が中心となって、訪問等によりアセスメントを行い、必要な支援を計画し、援助へ

と展開していく予定です。保護者の養育態度に不適切さが認められる家庭や、育児不安や心の不調など保護者自身の心身の状況が心配な家庭へのアプローチが進むことで、子どもの支援につながることを期待しています。

平成29年度以降は、今まで以上に地域への訪問が進

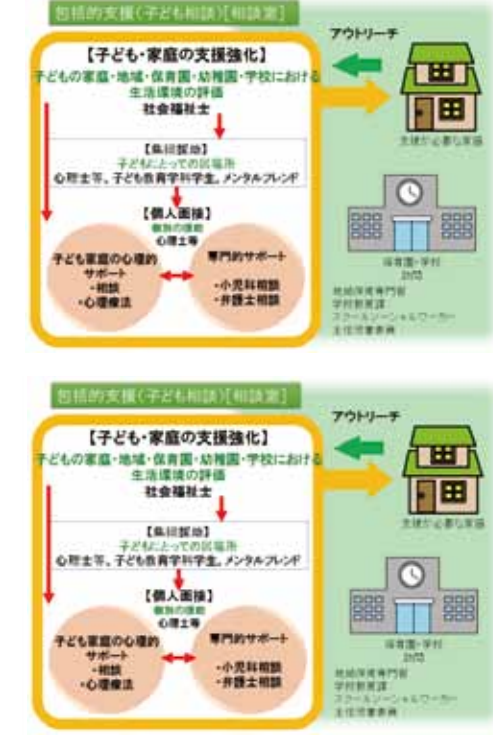


図2. 子どもや家庭の包括的支援体制の概要

表1. 子育て支援室の利用者数

	世帯数(世帯)	子どもの延べ利用数(人)	総延べ利用数(人)
26年度	1,499	9,242	17,657
27年度	1,507	9,589	18,464
28年度	1,411	8,633	16,564

表2. 相談室の相談実績件数

	子ども相談	女性相談	ママダイヤル	小計	専門相談計	(小児科)	(弁護士)	総合計
26年度	716	670	721	2,107	214	(141)	(73)	2,321
27年度	651	819	408	1,878	163	(114)	(49)	2,041
28年度	699	645	242	1,586	140	(104)	(36)	1,726



むことになることが予想されますが、当センター職員の専門性を幅広く地域に還元し有効活用するうえで、またとない機会となるはずです。

次に平成28年度の子育て支援室と、相談室の実績と、児童虐待防止啓発運動（オレンジリボンキャンペーン）を報告します。

【子育て支援室利用数】

表1は、平成26年度から平成28年度（2月28日まで）の子育て支援室の利用数の推移です。総延べ利用数は、子どもの利用延べ人数と、その保護者の利用延べ人数を合算したものです。

【相談室利用実績】

表2は、平成26年度から平成28年度（2月28日まで）の相談室利用実績の推移です。利用実績数はすべて延べ件数で表しています。表中のカッコ内は、専門相談合計における内訳を示してあります。

【オレンジリボンキャンペーン 仁愛大学学生の協力】

11月3日に仁愛大学子ども教育学科（石川先生にご協力いただきました）、子育て支援関連団体、福井市と協働して、学生によるオレンジリボン活動（児童虐待防止啓発運動）を「こども笑店」の名称で開催しました。

多文化体験プログラム

ロッキーナ先生と「Englishであそぼう」講座

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 野本 尚美

2016年10月15日の仁短祭において、幼児や小学生を対象とした『ロッキーナ先生と「Englishであそぼう」講座』がE401演奏ホールにて開催されました。これは「じんあいこどものくに」内の多文化体験プログラムとして毎年開催しているものです。3年目となった今回は、4月に新たに誕生した英語サークルの学生6名も参加し、多くの子どもたちと英語を通して交流することができました。

まずロッキーナ先生と一緒に“I Can Sing a Rainbow”を歌いながら、red, yellow, pink, green, orange, purple, blueといった単語に触れたあと、様々な色のフルーツについて、英語で何と言うか学習しました。そして「アイスクリームにトッピングしたいフルーツを買いに行こう」という設定で、買い物の際に用いるフレーズの練習をしました。



お買い物ごっこの練習風景

その後、子どもたち全員にお買い物袋とおもちゃのお金が入った封筒を渡し、お買い物ごっこに挑戦してもらいました。はじめは緊張してなかなか英語を話せない子もいましたが、アイスクリーム、コーン、パイナップル、オレンジ…と、繰り返しお買い物をする中で、だんだんと英語のフレーズに慣れ、店員役の学生達と“Cherry, please.” “Here you are.” “Thank you.”といったやりとりが上手にできる子も多くなりました。学生も、終始笑顔で子どもたちとのコミュニ

ケーションを楽しんでいました。この日のために頑張って作成したアイスやフルーツを、子どもたちが嬉しそうに手にする様子を見て、学生達も達成感を感じたことと思います。



お買い物ごっこの様子

その後、アイスクリームとフルーツを紙に自由に貼り付けてもらいました。どの子もとても上手に作品を完成させていました。



参加者による作品

最後に、ロッキーナ先生が絵本“A Beautiful Butterfly”を読んでくださって、約1時間の講座が終了しました。参加して下さった子どもたちや保護者の皆様に、心より感謝申し上げます。今後も、英語によるコミュニケーションの楽しさを感じていただけるような企画を、ロッキーナ先生や学生たちと共に考えていきたいと思っています。

福井市 JR福井駅周辺の公共施設の活用

澤崎ゼミ&森ゼミ 卒業研究学外発表会「未来への翼」

生活科学学科 生活情報専攻 准教授 澤崎 敏文

生活科学学科の卒業研究学外発表会として、生活情報専攻の澤崎ゼミと食物栄養専攻の森ゼミの合同発表会を2017年2月11日（土）14時～16時に、ハビリン2階の福井市観光物産館「福福館」にて開催しました。この「福福館」には「福福小屋」という40名程度を収容できる最先端の講義室があります。階段状の机の配置に3面スクリーンのプロジェクタ等が備え付けられています。これまでも、生活情報専攻の授業「コミュニケーション演習Ⅰ」で利用したことがあり、大学の講義や発表会をするには最適の空間です。

今回は、澤崎ゼミ18名、森ゼミ4名、指導教員2名に加えて、一般の参加者8名の合計32名での合同発表会となりました。生活情報専攻、食物栄養専攻では2～4名のグループで研究することが多く、澤崎ゼミ5グループ、森ゼミ1グループが下記のタイトルで発表を行いました。

【澤崎ゼミの発表タイトル】

- にぎわい創出と地域の活性化-永平寺での企画実践
- 多文化共生と地域コミュニティ国際イベント&町づくり
- ミサンガ販売から売れる商品の法則を学ぶ
- 笑いからわかる性格分析
- テーマパークの人気の秘密-USJ調査からその考察

【森ゼミの発表タイトル】

- 福井県産サトイモにおける調理特性の違い



今回は森先生のミニ公開講座も同時開催。普段、食物栄養専攻の授業を聞くことが少ない学生も、普段の食事とダイエットや栄養という身近なテーマに興味津々でした。

同じ大学・学科でも、専攻が違うとお互いにどのような研究をしているのか知らないケースも多いですが、このように、専攻を超えて合同発表会をすることで、研究分野や研究手法の違いを学ぶことができ、学生もいい刺激になったようです。

また、大学を飛び出して、一般の方々に前に発表を行い、様々な質問やご提案をいただいたことで、多くを学ぶことができました。当日ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



学生の社会的活動報告

ひかりの実ワークショップ

生活科学学科 生活環境専攻 2回生 永尾 えみ

11月～12月に金津創作の森で開催された現代アート作家の高橋匡太さんの作品の一つである「ひかりの実」のワークショップに参加させて頂きました。1回目はふくい夢アート2016の夢アートステーションへの来場者に、作家さんが描いた丸の中に思い思いの笑顔を描いて頂きました。2回目は仁愛幼稚園の園児の皆さんに描いて頂きました。私は三歳児を担当しましたが、みんなお気に入りの色のクレヨンを取りしめて元気いっぱい笑顔を描いてくれました。「おねえちゃん！みてみて！」と園児たちは作品を嬉しそうに披露してくれました。

11月26日、私たちが集めたものとあわら市内の小学生が描いた約3千の笑顔にカラフルなLEDをいれ、金津創作の森の木に飾りました。皆さんが描いてくれた顔は、晩秋の寒空のなかでピカピカと輝いて笑っているかのようにみえました。

地域の皆さんと作り上げる参加型のアート作品は初めてでしたが、ひとりひとりが作品に思い入れを持ち、たくさんの方々が作品を見に来てくれたので大成功であったと思います。今回貴重な体験をさせて頂けたことに感謝したいと思います。



完成したひかりの実で「はいチーズ！」

レッサーパンダ「メガメガとウルウル」のほめほめLINEスタンプ制作

生活科学学科 生活環境専攻 2回生 笹岡 美玖

昨年に引き続き、小林大伸堂さんからの依頼で鯖江市指定動物のシンボルである、レッサーパンダ「メガメガとウルウル」のLINEスタンプ制作を生活環境専攻の2回生9名と生活デザイン専攻の1回生4名の有志が取り組みました。今回はほめるスタンプをテーマに8月からデザイン案を練りました。「いい感じ！」や「優しいね」など約80のラフスケッチ案をイラストレーターというソフトを使ってデザインし、66個に絞りました。実際にLINEスタンプになるのは40個で、色や線の太さ、全体の大きさなどの調整を何度も重ねて、完成に向けて頑張っています。昨年参加したときは1回生で、イラストレーターを使いこなせず2回生の先輩方に教えていただきましたが、今回2回生での参加で昨年とは違い、イラストレーターを扱う技術は授業などを通して学んでいたもので、改めて依頼をこなす大変さや難しさを感じました。ですが、テーマに沿ったデザインに仕上がった時は達成感を得ることができました。



ぜひ、福井県民だけではなく、県外の人たちにもこのほめほめLINEスタンプを使っていただけたらと思います。そして、スタンプを通して鯖江に興味を持ってもらいたいです。

ネパールでのボランティア活動

生活科学学科 生活情報専攻 1回生 水上 百華

2月15日から2月22日の1週間、ボランティア活動のためネパールを訪れた。この活動に参加したきっかけは、澤崎先生の研究室前に掲示されたネパールの様々な写真を見たことである。ボランティア等で社会に貢献できないか、自分の価値観を広げたいと思い、先生にネパールに行きたいという思いを伝え、こうして実現することができた。

飛行機を乗り継ぎ、約1日かけて到着。車に乗り最初の拠点であるサンガの銀杏旅館に移動した。屋上から見る景色は写真で見たものよりも遥かに綺麗で、風当たりもよく素晴らしかった。初日は支援物資の仕分け等で終了。ネパールでの初めての夕食はダルバート。カレー風味なので日本人に合うと感じたが、なかなか辛かったのが印象的だった。

翌朝はチベットとの国境付近にあるラムチェ村に数時間かけて移動。到着後すぐに小学校へ向かった。子どもたちが私たちを待っており、歓迎セレモニーをしてくださった。その後、支援物資を配布した。子どもが恥ずかしそうにニコッと笑う姿がとても可愛かった。子どもたちの嬉しそうな表情にこちらまで嬉しくなった。村ではテントを張り寝床を作った。キャンプ経験もなくもちろんテントで寝るのも初めてだった。夕食はダルバートと有精卵の卵かけごはん。濃厚でとても美味しくいただいた。夜は、子どもと一緒に音楽に合わせて陽気に踊った。掛け声し

たり手拍子したりとみんなが笑顔で溢れており楽しいひとときを過ごした。

そしていよいよ授業当日。まずはシャボン玉で子供たちと交流。その後二手に分かれて教室に入り授業開始。ネパール語で挨拶をして、子どもたち一人一人に名前を聞いて回った。まずは福笑いを行い、大きな声ではっきりとネパール語で顔のパーツを言いながら、日本語でも教えた。身振り手振りでお手本を見せると興味津々な様子だった。子どもたちは次々と「私も！」と前に出てきて、楽しそうな表情を見せてくれて一安心だった。少し不格好な顔になったら、子どもたちは大きく笑っている。私もその笑顔につられて大きく笑う。楽しんでくれているのがとてもよく伝わってきた。福笑いにつき、日本の紹介をして、お菓子を配った。授業が終わり教室を出ていくとき、私の名前を呼んで笑顔で「ありがとう」とたくさん言ってくれた。隣の教室が終わるのを待っていても、窓からのぞき込んで「ありがとう」と何回も何回も言ってくれ、私はここにきた意味があったと思うことができた。

ネパールボランティアでは、新しい発見がたくさんあった。そして私たちの当たり前は当たり前ではないことも思い知らされた。道が平らなことや、信号があること、トイレトペーパーを流せること、お風呂があること、学校に行けること。改めて日本は不自由しない豊かな生活をしているのかかわかった。日本に戻って、こんな豊かな生活をしていいのだろうかとも思った。だが、幸せの形が違うだけでネパールの人たちは幸せなのだろうと感じた。筋田さん、ミナちゃんをはじめ、関わってくださった皆様、そして同行して下さった先生、本当にお世話になりました。ありがとうございました。



栄養研究サークル

生活科学学科 食物栄養専攻 2回生 清水 彩永

大学連携センターFスクエアオープニングフェスティバル（4月9日）、県総合グリーンセンターでのフラワーグリーンフェア（6月5日）、森田地区文化祭（10月16日）にて栄養研究サークル伝統のパウンドケーキの販売を行いました。また、福井市からベジガールズに任命され、福井市健康フェア・食育フェスティバルで食物栄養専攻2回生考案の野菜を使ったレシピ集を配布したり、10月2日にハピリンホールで「ベジファースト」宣言をして、まず野菜から食べる運動の推進などをしました。

売り物のパウンドケーキを綺麗に焼かなければいけないという責任感やなるべく早くケーキを焼く技術、人前に出て喋ることにに対する難しさを学ぶことができました。

とにかくパウンドケーキを焼くのが大変でした。でも、お客さんが買ってくださるのを見ると、作ってよかったなと思いました。また、ベジガールズとしての活動は初めてで短い期間で色々なことを体験することができました。まだまだベジファーストを知らない人がたくさんいるので、その人達にも知ってもらえるように、今後も活動していってみたいです。



じんあいこどものくに

幼児教育学科

日時:平成28年10月15(土) 9:30~16:00
会場:仁愛女子短期大学 E館

幼児教育学科では、毎年の大学祭において子ども向けのアトラクションを集めた「じんあいこどものくに」と題する企画を催しています。この企画は、学生が主体となって子どもたちが楽しめる遊び場を企画・準備・実践する学びの機会として位置づけられています。ここでは、今回の取り組みの内容についてご紹介します。

【クラス別開催内容】

- 1Aクラス ハローウィン
～おばけたちの愉快的なパーティー～
- 1Bクラス お楽しみ劇～にじいろのはな～
- 1Cクラス おまつり
- 2Aクラス 妖怪GO!
- 2Bクラス 迷路
- 2Cクラス バルーンアート

【学生の感想】

◎幼児教育学科1回生 坪川 まゆ

私たちのクラスは「劇：にじいろのはな」をしました。私はクラスの実行委員で、この劇のシナリオも書きました。クラスで準備をする時間が少なく大変でしたが、前日になるとクラスの皆が協力して、アイデアを出し合って頑張ってくれました。実行委員の仕事まで手伝ってくれた子もいました。当日は多くの子どもたちが劇を楽しむ姿を見て、温かい気持ちになりました。



◎幼児教育学科2回生 池谷 侑紀

私たちのクラスは「妖怪GO!」の中で昔遊びと子どもたちの好きなアニメキャラクターを掛け合わせた遊びを行いました。時にクラスの皆で意見が食い違うこともありましたが、来てくれた子どもたちの笑顔が見たい一心から一人一人が精一杯活動を行うことができました。子どもたちだけでなく、保護者の方も一緒に昔遊びを楽しんで下さる姿を見ることができて、不安だったことや大変だったことも忘れてしまうくらい嬉しかったです。

子育て応援団「すこやかふくい2016」

幼児教育学科 2回生 小林 千尋

日時:平成28年11月26日(土)・27日(日)

私は「すこやかふくい2016」で総合司会をさせていただきました。ステージ発表では、「おもちゃのチャチャチャ」を発表しました。みんなで振り付けを考え、何度も練習をしました。練習を重ねることで、より良い発表になっていくのだと学びました。

総合司会は、大勢の前で話すことができて良かったと思います。保育者になると大勢の前で話す機会が多くなるので、ここでの経験を活かしていきたいです。ステージ発表、総合司会で得たことを様々な所で発揮していきたいです。



学生ボランティア活動報告

英語サークル

生活科学学科 生活情報専攻 1回生
笹木 瑞希

私たちは2016年8月10、19、23、24日に福井市森田地区の児童館及び3つの児童クラブで、小学生を対象とした英語教室を開催しました。まだ英語を聞いたり話したりする機会が少ない子どもたちにどのようにしたら英語を楽しく学んでもらえるか考え、英語を使った歌を歌ったり、ゲームをすることにしました。

まずは英語の歌“If You're Happy and You Know It [幸せなら手をたたこう]”を、体を動かしながら一緒に歌いました。みんな笑顔で体を動かしていて、とても嬉しかったです。

その後、子どもたちとグループを作り、英語で道案内をするというゲームをしました。“Go straight! [まっすぐ進んで!]”といった指示をしっかりと聞いて、子どもたちがどんどん目的地に向かっていく姿を見て、私たちは思わず、「すごい!」と拍手をしてしまいました。

また、8月26日に開催した森田公民館における英語教室では、英語を使ったメッセージカードを作成してもらいました。子どもたちが大好きな家族や友達を思いながら作ったカードは、どれも素晴らしかったです。

英語教室を始める前は、子どもたちが英語に対して苦手意識を持たずに最後まで楽しんでくれるか心配でした。しかし、歌やゲームを通して英語に触れ、私たちとの英語を使ったコミュニケーションを子どもたちがすごく楽しんでくれている様子を見て、嬉しかったです。中には恥ずかしがり屋の子や、なかなか英語を発することができない子もいましたが、私たちが笑顔で教え、一緒に楽しむことで、英語に興味を持ってもらうことができました。英語を話すことや聞くことは簡単ではありませんが、子どもたちとのふれあいを通して、何よりも笑顔で楽しく英語を学習していけば、英語が好きになり、話してみたくなるのではないかと思います。また来年も英語教室を行って、より多くの子どもたちが英語に親しんでくれるといいなと思います。



パソコンボランティアサークル

サークル長:生活科学学科 生活情報専攻 2回生
川崎 祐生

仁短パソコンボランティアサークル（以下、パソボラ）は、鯖江市社会福祉協議会鳥羽事業所「なかま」にて、2ヶ月に1回程度のペースで「障がい者のためのパソコン相談会」を主催する等の活動をしています。

私がこのパソボラに入ったのは、何か人の役に立ちたいと思ったことがきっかけです。パソボラでは、パソコン相談会で障がい者の方にパソコンの操作方法を教えたり、さばえボランティアまつりで子ども達にバルーンアートを教えたりなどの活動をしました。みなさん楽しんだり喜んだりしてくれたので、とても嬉しかったです。ボランティア活動を通して、どうしたら受け手の人に喜んでもらえるのかを考えて行動することが一番大切だと感じました。普段の生活でも相手の気持ちを考えて行動していきたいです。



鯖江市 社会福祉協議会鳥羽事務所「なかま」

会計:生活科学学科 生活情報専攻 2回生
北畑 朋未

自分たちが学校で習得したパソコンスキルを活かして、人に教える場でボランティア活動できたことは、とても嬉しいことだと思います。相談者はとても熱心な方達ばかりで、私たちよりも知識をお持ちの方がいて、私たちも勉強させて頂きました。2回目以降、私の名前を覚えてくださる方ばかりでとっても嬉しかったです。相談者との雑談の中でも、これからの就職のことや勉強の仕方などアドバイスを頂きました。年上の方と交流する機会は貴重なので、いい経験になりました。

写真サークル

生活科学学科 生活情報専攻 2回生
網田志緒里・飯田彩由里・伊藤 千紘

写真サークルでは28年度、様々な機会をとらえて写真の展示をさせていただきましたが、その中で共通の取り組みがあります。それは、2年前の大地震で被災したネパールの復興支援・教育支援のための募金の呼びかけです。



平成28年3月から4月にかけて、福井市まちづくりセンター「ふく+」、アオッサ5階「子育て支援室ギャラリー」にて写真展「Happiness - 今そこにある幸せ」を開催させていただきました。また、4月9日に開催された大学連携センターオープニングフェスティバルにも大学の写真サークルとしてブース出店。これまで撮影した写真に加えて、会場で撮影した当日の風景・人物写真をその場で印刷しパネルに展示していくという新たな試みも行いました。10月にはJ R 森田駅の夢ギャラリー、森田文化祭の小学校会場にて写真の展示をさせていただきました。

いずれの写真展会場でも、ネパールの写真展示と募金箱の設置を行い、多くの方々からあたたかい支援をいただきました。集められた募金は1月31日に福井ネパール会事務局を通じてネパールの復興・教育支援に届けられます。皆様のご理解・ご協力ありがとうございました。（文責:顧問 澤崎敏文）



折り紙サークル

幼児教育学科 2回生
柿本 さとみ

折り紙サークルでは、主に折り紙の作品や、季節にあわせた壁面を年間で6枚つくったり、年2回ほど地域のボランティアに参加したりしています。この季節の壁面は、福井大学医学部の附属病院に入院している子どもたちに提供しており、ちいさな社会貢献となっています。

サークル活動を通して、仕事を人数分おなじように分担することの難しさを学びました。私達のつくる壁面はメインとなる動物などを色画用紙で作り、お花や果物など飾りとなるものを折り紙で作ります。折り紙はすぐに出来てしまうのですが、メインの動物は顔の輪郭や目の大きさ、位置で大きく印象が変わってしまうので、製作にとっても時間がかかります。動物の方は、人数が多すぎてもそれぞれのイメージにずれがうまれて上手くいかなくなってしまうことから、割合的には折り紙の方が圧倒的に多く、そうなると思うと折り紙の方の活動が終わってしまうので、そのバランスが難しかったです。

計画していた内容をすべてはできず残念でしたが、みんな毎回協力的に動いてくれて、サークル内の仲はさらに深まったと思います。



ボランティアサークル

幼児教育学科 2回生 揚原 瑠

今年度は公立図書館で月1、2回、図書館を利用している児童・乳幼児とその保護者の方々を対象に、手遊び、絵本の読み聞かせや紙芝居、制作や簡単なゲームなどをして遊ぶ活動が中心でした。

また、ハピリンでの学生交流のボランティア活動や、子ども虐待防止オレンジリボン運動のイベントにも参加しました。



図書館での活動のとき、「今日の活動はおもちゃの制作をしよう」と考えて用意していったのに、実際の参加者は赤ちゃんばかりで、急遽、遊びの内容や手遊びや絵本の種類も全て変えるということがありました。相手に合わせて臨機応変に対応することの大切さを学ぶ経験となりました。

ボランティアとは、相手に対して遊びや物などを提供することが目的であると考えていましたが、活動に何回か参加していくうちに、相手からエネルギーや笑顔、将来に役立つヒントなど様々なものを自分が与えるより何倍も受け取っていることに気付きました。ボランティア活動を通してたくさんのことを感じたり、考えたりすることができました。この経験を大切にしたいと思います。

おもちゃサークル

幼児教育学科 2回生 南出 帆摘

6月に開催された「木のおもちゃ博〜ふくい木育キャラバン〜」で、たくさんの木のおもちゃを通して子どもたちとふれあい、安全に遊ぶことができるよう見守るボランティア活動を行いました。

木育キャラバンでは、日本国内だけでなく世界中から集められたたくさんの木のおもちゃに触れることができました。また、おもちゃを通して、子どもたちや保護者の方々と交流することができました。ただの四角いつみきも子どもたちにとっては立派なおもちゃで、想像力豊かに遊んでいました。1つのおもちゃでも様々な遊びのバリエーションがあり、一人ひとり違う遊びをしているのを見て、驚きとともに勉強になりました。

会場にはたくさんの方が来られていて、一人ひとりとじっくり遊ぶということはできませんでしたが、子どもたちは、大人では考えられない発想で遊んでいました。たくさんの子どもたちとその場その場での関わりができ、保育園等での実習とはまた違った楽しさがありました。



平成28年度 地域活動実践センター活動報告

● 管理栄養士国家試験対策リカレント講座

	開講日	教 科	講 師 (敬称略)	参加人数
第1回	8月27日(土)	第1回 全国統一模擬試験	牧野みゆき	3
第2回	9月15日(木)	食べ物と健康-1(調理)	谷 洋子	7
第3回	9月29日(木)	栄養教育論	牧野みゆき	5
第4回	10月 6日(木)	食べ物と健康-2(食品)	加藤 隆夫	3
第5回	10月12日(水)	基礎栄養学	岩田 章子	5
第6回	10月20日(木)	食べ物と健康-3(食品衛生)	加藤 隆夫	7
第7回	10月27日(木)	生化学	谷 政八	7
第8回	11月10日(木)	社会・環境と健康-1	出口 洋二	7
第9回	11月12日(土)	第2回 全国統一模擬試験	牧野みゆき	3
第10回	11月17日(木)	応用栄養学	牧野みゆき	6
第11回	11月24日(木)	社会・環境と健康-2	出口 洋二	7
第12回	11月26日(土)	第3回 全国統一模擬試験	牧野みゆき	10
第13回	12月 1日(木)	公衆栄養学	牧野みゆき	10
第14回	12月 8日(木)	人体の機能と栄養(解剖生理学)	齋藤 正一	10
第15回	1月12日(木)	人体の構造と疾患(病理)	齋藤 正一	9
第16回	1月19日(木)	臨床栄養学(診断)	齋藤 正一	7
第17回	1月25日(水)	給食経営管理論	嵐川眞智子	7
第18回	2月18日(土)	第4回 全国統一模擬試験	牧野みゆき	9

教員の地域活動一覧

生活科学学科			(専攻別・五十音順)
専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など	
生活デザイン専攻	都市計画 まちづくり	内山 秀樹	●東日本大震災に見る地域の力～遠野からの報告～ ●広域避難者支援活動の報告と課題 ●無縁社会を考える ●アートと地域づくり ●これからのまちづくり～住民とNPO、協働～ ●人と地域をつなげる公民館を目指して ●地域を魅力的に人を元気にする プロジェクトづくりのススメ ●やねだんから学ぶまちづくりの流儀 ●まちづくり関連ワークショップ
	グラフィックデザイン ビジュアルコミュニケーション	西畑 敏秀	●デザイン研修／基礎コース デザイン基礎コースの講師 ●屋外広告物講習会(屋外広告業の経営者および従事者、管理者へのデザイン講習) ●福井県高校総合文化祭 美術・工芸部門(美術部高校生や美術関連教員に向けた講演会) ●高度技術者招聘事業(特別授業開講) ●ふくふくベジファースト応援事業「ベジファースト／ロゴ・ポスターデザイン」 ●ふくいサラダニンジンプロジェクト「新種ニンジンのネーミング企画・ロゴマークデザイン」
	デザイン	橋本 洋子	●NPO法人SDwaveでの活動(デザインで社会貢献を目指すNPO団体として鯖江市で活動) ●メガ・メガ・ウルウルのほめほめLINEスタンプ40種類をデザイン ●メガ・メガ・ウルウルのほめほめゴム印のデザイン ●メガ・メガ・ウルウルのLINEスタンプ40種類をデザイン ●鯖江市が新たに市の動物としたレッサーバンダシンボルデザインの使用マニュアル作成 ●とうふドーナツのパッケージにメガウルを使用したステッカーデザイン
	テキスタイルデザインファッションデザイン	前田 博子	●ファッションショーの実施 ●染め物ワークショップ ●ファッション小物制作ワークショップ ●企業連携テキスタイル商品企画 ●テキスタイルデザイン図案制作
生活情報専攻	コミュニケーション マーケティング 経営	澤崎 敏文	●効果的なプレゼンテーション手法について ●企画立案、広報手段について ●地域におけるマーケティングのあり方について ●コミュニケーションのあり方 ●ソーシャルメディアとビジネスの活用 ●地域ビジネス、企業等におけるマネジメント ●キャリアデザイン、学びと学習環境等
	教育工学	田中 洋一	●保育者のためのパソコン教室 ●幼稚園における視聴覚教育研修 ●eポートフォリオ活用の研修
	英語教育 第二言語習得論	野本 尚美	●「洋楽で英語を学ぼう」 ●幼児向け英語教室 ●小学生向け英語教室
	情報教育	平塚紘一郎	●Microsoft Excel講座 ●iPhone活用講座 ●iPad基礎講座 ●Microsoft Excel 基礎講座 ●Microsoft Excel 応用講座
食物栄養専攻	栄養学、生体の化学 子どもの食と栄養	岩田 章子	●リカレント講座「基礎栄養学」
	公衆栄養学	牧野みゆき	●食と健康－健康寿命を延ばす食事－ ●食と健康－生活習慣病を防ぐ食生活－ ●リカレント講座「栄養教育論」「公衆栄養学」「応用栄養学」
	調理科学	森 恵見	●親子で作るデコレーションケーキ ●食育講座(調理実習) ●親子クッキング ●離乳食教室 ●壮年大学(環境の高揚のための学習)「福井の食生活について～地産地消など～」

幼児教育学科			(五十音順)
専門分野	氏名	講演や講座のテーマ・内容など	
健康体力学 測定評価学	内田 雄	●児童厚生指導員研修会「ゲーム・運動遊び」 ●介護予防いきいき講座(高齢者対象の体力測定)	
幼児教育・保育	江端 佳代	●子育てワンポイントアドバイス ●主任保育士研修 ー保育課程の編成と保育内容ー ●リーダー保育士研修 ー保育課程の編成と指導計画ー ●小学校入学を前に	
音楽	大久保功治	●教養としての音楽講座「ヒット曲の仕組み」「世界の音楽について」 ●フルートによる演奏会	
発達心理学 実験心理学	乙部 貴幸	●乳幼児の発達(脳と行動) ●自己制御のメカニズムと発達 ●行動と遺伝 ●乳幼児期の子ども発達の捉え方 ●保護者の意識を向上させる支援の仕方	
仏教学 おもちゃ学	香月 拓	●教養としての仏教 ●仏教保育 ●子どもの成長とおもちゃあそび ●身近な素材で手作りおもちゃを作るワークショップ	
音楽	河野 久寿	●「コンピュータ音楽の世界」 ●文化に親しむ【音楽文化講座】第3回「コンピュータによる音楽の作り方」	
音楽科教育 ピアノ演奏	木下 由香	●ピアノ公開講座 ●ピアノコンクール審査 ●福井県ふるさと子どもコンサート 越のルビーアーティスト ●保育者ワークショップ「子どものための音楽遊び～ピアノと戯れよう～」 ●文化に親しむ「音楽文化講座・ハンガリーの音楽教育」 ●金沢市第九ブロック保育士会コンサート ●ぎふリスト音楽院マスターコンサート2016 ●福井交響楽団オータムコンサート2016 ●親子のための虹色コンサート	
美術	重村 幹夫	●デッサン実技指導 ●油画実技指導 ●幼児造形教育実技指導 ●造形講座「絵画指導、幼児造形指導法」	
保育 児童家庭福祉	賞雅さや子	●公開保育「からだ育てー意欲と自信につながる生活・遊び」 ●「日本の保育・世界の保育」 ●「共に生きるためにー関係発達の視点」 ●児童厚生指導員研修「集団援助活動」 ●主任保育士研修「相談援助」 ●「ともに生きる保育」 ●子育て支援員研修	
国語・言語表現 日本文学(古典も含む) 国語科教育 児童文学	前田 敬子	●書くこと、読むことの保幼小連携 ●絵本の世界 ●学生が読み聞かせに選ぶ絵本 ●山川登美子の歌の世界 ●金子みすゞの童謡の世界 ●発見 百人一首の世界	
保育学・教育学 保育・教育思想史 保育・教育方法学 保育者論	増田 翼	●ふくい子ども学「こどもの育ちー遊びについてー」 ●ふくい子ども学「僕が変われば子どもも変わる?」 ●保育者ワークショップ「主体的に学ぶ」とは ●保育者ワークショップ「歌う楽しさの原点にあるものは?」 ●新人保育者スキルアップ「保育に活かす音の遊び」 ●「子どもの未来～大人からの継承～」 ●子育て支援ボランティア養成講座 ●幼稚園・認定こども園新規採用教員研修「認定こども園教育・保育要領について」 ●パワーアップセミナー「分科会講演」	
教育課程論 保育内容	松川 恵子	●個の育ち・集団の育ちを支える保育士の役割 ●「子育て支援」という名の「親育ち支援」 ●幼児期から児童期への育ちをつなぐ、豊かな教育の創造 ●かかわりのなかで育ち合う ●子どもとのかかわりと「遊び」 ●就学を迎える子どもを支える～家庭での配慮・心がけ～ ●改定保育所保育指針について ●「子どもの育ち」・「親の育ち」を支える ●人とかかわる力を育む	●子どもの育ちー人とかかわる力についてー ●質の高い保育を目指して ●幼児期における道徳性や規範意識の芽生えについて ●主任保育士の役割と責務 ●中堅(リーダー)職員としての役割・行動 ●リーダー保育士研修(保育士の自己評価に関する研修) ●福井市公立保育園主任保育士研修「人材育成について」 ●福井市消費者まつり「折り紙教室」の開催(学生引率) ●公立保育研究会 主任保育士・主幹保育教諭研修会

●平成28年度 教員免許状更新講習

仁愛女子短期大学が、平成28年度に実施した教員免許状更新講習「全ての受講者が受講する領域（必修）」・「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域（選択必修）」・「受講者が任意に選択して受講する領域（選択）」の概要は次の通りである。

必須講習	講習名	教育の最新事情
	認定番号	平28-35162-100076号
	講師	乙部 貴幸（本学 幼児教育学科 准教授） 賞雅さや子（本学 幼児教育学科 准教授） 増田 翼（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月23日（火） 9:00～16:10
	受講者数	222人

選択講習①	講習名	教育の情報化（幼稚園編）
	認定番号	平28-35162-300123号
	講師	田中洋一（本学 生活科学学科 教授）
	講習の目標・ねらい	幼稚園での「教育の情報化」に関して、最新の知識や技能を学び、次の2点をを目指す。 ①情報モラルや情報セキュリティを理解し、幼稚園の情報セキュリティポリシーを作成できる。 ②最新のICT活用例を理解し、多様な園児に合わせた視聴覚教育を設計できる。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年7月24日（日） 9:00～16:10
選択講習②	受講者数	34人

選択講習②	講習名	幼児期における英語教育
	認定番号	平28-35162-300124号
	講師	内藤 徹（本学 生活科学学科 教授）・野本尚美（本学 生活科学学科 講師）
	講習の目標・ねらい	「外国語としての英語教育の理論」「幼児英語教育の実践演習」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月25日（木） 9:00～16:10
選択講習③	受講者数	76人

選択必修講習③	講習名	学習指導要領の改訂の動向及び法令改正及び国の審議会の状況等
	認定番号	平28-35162-300125号
	講師	松川恵子（本学 幼児教育学科 教授）・江端佳代（本学 幼児教育学科 講師）
	講習の目標・ねらい	「幼稚園教育要領の改訂の動向等」「法令改正及び国の審議会の状況等」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月28日（日） 9:00～16:10
選択講習④	受講者数	120人

選択講習④	講習名	造形と言葉Ⅰ
	認定番号	平28-35162-500268号
	講師	重村幹夫（本学 幼児教育学科 教授）・前田敬子（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもの活動を、造形表現と言語活動の点からその意義や役割を考え、子どもの発達過程を踏まえた造形表現や言語活動に関する知識や技能を実践的に学ぶ。造形表現では幼児の絵画の指導法について学ぶとともに、互いにコミュニケーションを取り、協力してグループ紹介の壁画を作る。言語表現では、物語や絵本を保育活動に生かす活動例を紹介し合い、物語や絵本を新たな角度から眺め考えることをもとにして、互いに協力して物語にちなんだ遊び道具を共同制作する。このような学習を通して、保育者に求められる基礎的な造形感覚や技能、言語能力の向上を目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年7月31日（日） 9:00～16:10
選択講習⑤	受講者数	106人

選択講習⑤	講習名	子どもの音楽的感性を育む実践指導
	認定番号	平28-35162-500269号
	講師	河野久寿（本学 幼児教育学科 准教授）・木下由香（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の目標・ねらい	子どもたちの発達に応じた音楽表現活動の意義を理解し、自然な音楽活動を通して、伸びやかな音楽的感性を育成する実践的な指導について学ぶ。子どもたちの音楽的感性をより育むことを目的とした講習を、理論と実践の両面から行う。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月5日（金） 9:00～16:30
選択講習⑥	受講者数	87人

選択講習③	講習名	子どもの運動と食育
	認定番号	平28-35162-500270号
	講師	出村友寛（仁愛大学 人間生活学部 講師）・嵐川眞智子（本学 生活科学学科 講師）
	講習の 目標・ねらい	子どもの健康を「運動」と「食育」の面から学ぶことを目的とする。「運動」では、子どもの運動遊びと体力の発達について学ぶとともに、自身の体力測定を行い、結果を分析評価する。「食育」では、幼児期の「間食」の大切さを学ぶ。特に「食べたいものの好きなものが増える」子どもを育てるための具体的な食育の方法を学ぶ。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月19日（金） 9:00～16:30
	受講者数	109人

選択講習④	講習名	仏教に見る子どもとの関わり
	認定番号	平28-35162-500271号
	講師	香月 拓（本学 幼児教育学科 准教授）
	講習の 目標・ねらい	釈尊の生涯と言葉について学ぶ。さらにその学びを通して、これまでの子どもとの関わりについて振り返りながら自己省察をする。また、仏教行事のあり方や意味についても学んでいく。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月21日（日） 9:00～16:10
	受講者数	91人

選択講習⑤	講習名	造形と言葉Ⅱ
	認定番号	平28-35162-500272号
	講師	前田博子（本学 生活科学学科 講師）・谷出千代子（本学 幼児教育学科 非常勤講師）
	講習の 目標・ねらい	子どもの活動を、造形表現と言語活動の点からその意義や役割を考え、子どもの発達過程を踏まえた造形表現や言語活動に関する知識や技能を実践的に学ぶ。造形表現では、さまざまな布を用いて布の特性を生かしたキャラクターをつくる。それらに名前をつけて性格や特性について発表する。言語活動では、紙コップで簡単な製作あそびをしながら、絵本の世界を再現したり、発展させたりする。このような学習を通して、保育者に求められる基礎的な造形感覚や技能、言語能力の向上を目指す。
	講習会場	仁愛女子短期大学
	日程	平成28年8月31日（水） 9:00～16:10
	受講者数	115人



仁愛女子短期大学 キャンパス

○ 編集後記

- 【ち】力からを合わせて
【い】生き生きとした環境づくりのお手伝い。
【き】希望と
【か】活力あふれる取り組みを
【つ】積み重ねていくことで、
【ど】ドラマチックで
【う】ウキウキするような地域活動実践センターになるよう努力していきます。
ご協力ありがとうございます！（さき）

地域との心温まるつながりを実感した一年でした。これからも地域と共にあることを忘れずにサポートさせていただきます！（ゆ）

この一年間、食育講座などの講座に参加し、どの講座も笑顔があふれる講座ばかりでした。これからも、参加された方が楽しい時間を過ごせるような講座を開催していきたいと思います。（よ）